

有価証券報告書

(金融商品取引法第24条第1項に基づく報告書)

事業年度 自 平成23年4月1日
(第40期) 至 平成24年3月31日

株式会社タカラレーベン

東京都新宿区西新宿二丁目6番1号

(E03997)

目次

頁

表紙

第一部 企業情報	1
第1 企業の概況	1
1. 主要な経営指標等の推移	1
2. 沿革	3
3. 事業の内容	4
4. 関係会社の状況	5
5. 従業員の状況	5
第2 事業の状況	7
1. 業績等の概要	7
2. 生産、受注及び販売の状況	10
3. 対処すべき課題	10
4. 事業等のリスク	11
5. 経営上の重要な契約等	12
6. 研究開発活動	12
7. 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	13
第3 設備の状況	16
1. 設備投資等の概要	16
2. 主要な設備の状況	16
3. 設備の新設、除却等の計画	16
第4 提出会社の状況	17
1. 株式等の状況	17
(1) 株式の総数等	17
(2) 新株予約権等の状況	17
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	17
(4) ライツプランの内容	17
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	17
(6) 所有者別状況	18
(7) 大株主の状況	18
(8) 議決権の状況	20
(9) ストックオプション制度の内容	21
2. 自己株式の取得等の状況	22
3. 配当政策	23
4. 株価の推移	24
5. 役員の状況	25
6. コーポレート・ガバナンスの状況等	28
第5 経理の状況	33
1. 連結財務諸表等	34
2. 財務諸表等	73
第6 提出会社の株式事務の概要	97
第7 提出会社の参考情報	98
1. 提出会社の親会社等の情報	98
2. その他の参考情報	98
第二部 提出会社の保証会社等の情報	99

[監査報告書]

[内部統制報告書]

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成24年6月22日
【事業年度】	第40期（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）
【会社名】	株式会社タカラレーベン
【英訳名】	Takara Leben CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長兼最高経営責任者（CEO） 村山 義男
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿二丁目6番1号
【電話番号】	（03）5324-8720
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員経営企画室長 北川 智哉
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿二丁目6番1号
【電話番号】	（03）5324-8720
【事務連絡者氏名】	取締役兼執行役員経営企画室長 北川 智哉
【縦覧に供する場所】	株式会社タカラレーベン北関東支店 （埼玉県さいたま市大宮区桜木町二丁目272番地） 株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
売上高 (百万円)	64,778	57,652	51,955	46,884	55,191
経常利益又は経常損失 (△) (百万円)	6,205	△9,787	2,378	5,525	5,071
当期純利益又は当期純損失 (△) (百万円)	3,506	△12,471	2,244	5,083	3,681
包括利益 (百万円)	—	—	—	5,086	3,692
純資産額 (百万円)	19,318	6,420	8,651	18,361	21,138
総資産額 (百万円)	99,842	71,486	54,540	61,054	70,277
1株当たり純資産額 (円)	1,166.76	387.80	522.51	566.66	683.33
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額 (△) (円)	210.34	△753.21	135.56	168.14	116.49
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	209.03	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	19.3	9.0	15.9	30.1	30.1
自己資本利益率 (%)	19.5	—	29.8	37.6	18.6
株価収益率 (倍)	2.6	—	3.1	2.9	6.7
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△1,841	6,653	12,218	7,897	11,464
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△7,615	△4,144	△451	△1,032	△792
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	12,584	△11,671	△11,783	△1,191	△2,685
現金及び現金同等物の 期末残高 (百万円)	12,896	3,733	3,717	9,391	17,377
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	486 (166)	333 (125)	311 (136)	351 (72)	351 (66)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第37期は1株当たり当期純損失であり、また、第37期、第38期、第39期及び第40期は潜在株式がないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
決算年月	平成20年 3 月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月
売上高 (百万円)	58,256	52,388	48,691	43,071	51,502
経常利益又は経常損失 (△) (百万円)	5,838	△10,311	1,898	5,331	4,685
当期純利益又は当期純損失 (△) (百万円)	3,301	△12,817	1,950	5,003	3,552
資本金 (百万円)	2,442	2,442	2,442	4,819	4,819
発行済株式総数 (株)	17,540,333	17,540,333	17,540,333	33,386,070	33,386,070
純資産額 (百万円)	18,758	5,487	7,423	17,053	19,701
総資産額 (百万円)	96,565	69,349	52,154	58,850	67,904
1株当たり純資産額 (円)	1,132.91	331.40	448.36	526.29	636.87
1株当たり配当額 (内1株当たり中間配当額) (円)	24.00 (12.00)	12.00 (12.00)	2.00 (-)	9.00 (3.00)	13.00 (4.00)
1株当たり当期純利益金額又は 1株当たり当期純損失金額 (△) (円)	198.07	△774.13	117.81	165.48	112.41
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	196.84	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	19.4	7.9	14.2	29.0	29.0
自己資本利益率 (%)	18.9	-	30.2	40.9	19.3
株価収益率 (倍)	2.7	-	3.6	2.9	6.9
配当性向 (%)	12.1	-	1.7	5.4	11.6
従業員数 (外、平均臨時雇用者数) (人)	218 (38)	200 (19)	161 (18)	189 (28)	200 (19)

(注) 1. 売上高には消費税等は含まれておりません。

2. 第40期1株当たり年間配当額13円は40周年記念配当2円を含んでおります。

3. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、第37期は1株当たり当期純損失であり、また、第37期、第38期、第39期及び第40期は潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【沿革】

昭和47年9月	東京都板橋区大和町に「株式会社宝工務店」を資本金170万円にて設立。
昭和48年1月	宅地建物取引業東京都知事(1)第23405号の免許を取得し、不動産業を開始。
昭和49年5月	板橋区中板橋に本社移転。
昭和50年6月	板橋区中板橋に本社用ビル「第一宝ビル」を購入。
昭和50年8月	建設業東京都知事許可(般-50)第37608号を取得。
昭和54年6月	第一宝ビルに本社移転。
昭和57年3月	埼玉県与野市(現さいたま市)に賃貸物件(12戸)を購入し賃貸事業を開始。
昭和60年9月	貸金業東京都知事(1)第05714号の許可を取得。
昭和61年5月	販売、仲介業務拡大のため「株式会社宝住販」を設立。
昭和63年4月	不動産管理会社「株式会社宝管理」を設立。
平成元年5月	株式会社宝住販が宅地建物取引業東京都知事免許より建設大臣免許(1)第3900号に変更。
平成6年5月	株式会社宝住販マンション事業部開設。
平成6年6月	自社分譲マンション「レーベンハイム」シリーズを販売開始。
平成8年2月	株式会社宝管理を「株式会社レーベンコミュニティ」に商号変更。
平成11年8月	宅地建物取引業建設大臣免許取得、免許証番号建設大臣(1)第5924号。
平成11年9月	株式会社宝住販を吸収合併。
平成12年1月	東京都より不動産特定共同事業の認可を取得、許可番号東京都知事第33号。
平成12年10月	商号を株式会社宝工務店から「株式会社タカラレーベン」に変更。
平成13年8月	本社を東京都豊島区に移転。
平成13年11月	JASDAQ市場に上場。
平成13年12月	融資取次事業「株式会社タフコ」を設立。
平成15年4月	東京証券取引所市場第二部に上場。
平成16年3月	東京証券取引所市場第一部に上場。
平成16年5月	不動産仲介事業「株式会社リライブルレーベン」を子会社化。
平成16年11月	介護事業「株式会社アズパートナーズ」を設立。
平成17年6月	一般建設業許可を特定建設業許可(特-17)第37608号に変更。
平成17年9月	信託受益権販売業登録、関東財務局長(売信)第241号。
平成18年5月	本社を東京都新宿区の新宿住友ビルに移転。
平成18年12月	株式会社リライブルレーベンを「株式会社タカラライブネット」に商号変更。
平成20年8月	債権管理回収事業「丸の内債権回収株式会社」を子会社化。
平成21年3月	「株式会社アズパートナーズ」の株式一部売却に伴い、連結子会社から持分法適用関連会社へ異動。
平成22年4月	自社施工による戸建分譲事業を開始。
平成22年5月	日本初のライツ・イシューによる増資を完了。
平成23年7月	注文住宅の販売を開始。
平成23年9月	「株式会社タカラライブネット」の株式全部売却に伴い、非子会社化。

3 【事業の内容】

当社グループは、当社、連結子会社3社及び関連会社1社によって構成され、首都圏を中心に不動産事業を展開しております。

当社は、主として新築分譲マンション「レーベン」シリーズの企画開発及び販売を行っております。

連結子会社である㈱レーベンコミュニティは、分譲マンションの総合管理事業を中心に行っております。

連結子会社である㈱タフコは、融資回収及びその他手数料業務を中心に行っております。

連結子会社である丸の内債権回収㈱は、債権管理回収業に関する特別措置法に基づく債権管理回収業務を行っております。

持分法適用関連会社である㈱アズパートナーズは、介護付有料老人ホームの運営を中心に行っております。

なお、㈱タカラライブネット（現㈱ライブネットホーム）は、平成23年9月末日に株式を売却し、連結対象から除外しております。

(1) 不動産販売事業

当社は、首都圏をコアエリアに新築分譲マンション「レーベン」シリーズの企画開発及び販売を中心に行っております。

(2) 不動産賃貸事業

当社は、首都圏をコアエリアにアパート、マンション及び貸事務所、その他貸店舗の賃貸事業を行っております。

(3) 不動産管理事業

連結子会社である㈱レーベンコミュニティにおいて、分譲マンションの総合管理事業等を行っております。

(4) その他

・ 融資回収事業

連結子会社である㈱タフコにおいて、融資回収業務を行っております。

・ 債権管理回収事業

連結子会社である丸の内債権回収㈱において、債権管理回収業に関する特別措置法に基づく債権管理回収事業を行っております。

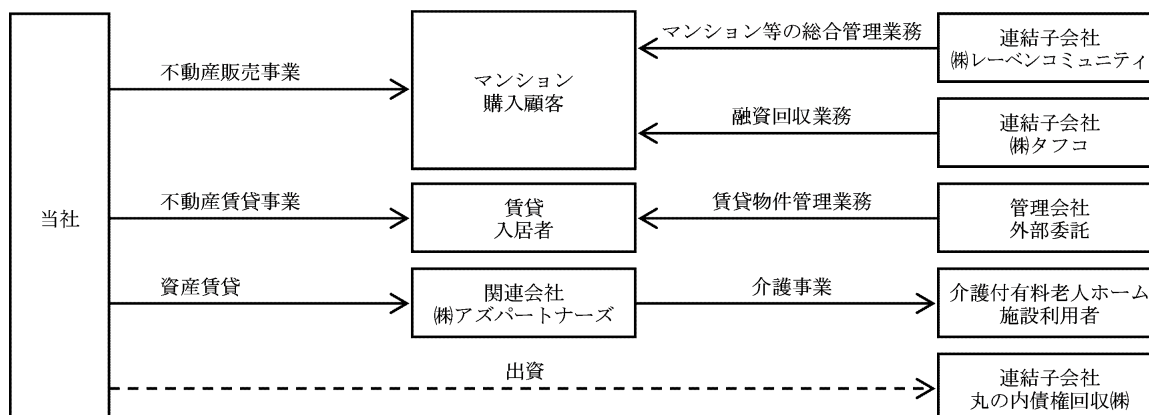
・ 介護事業

持分法適用関連会社である㈱アズパートナーズにおいて、介護付有料老人ホームの運営等を行っております。また、連結子会社である㈱レーベンコミュニティにおいて、リハビリ特化型デイサービス事業を開始しております。

・ その他事業

当社グループにおいて、販売代理受託等、上記以外の事業を行っております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 割合又は被所 有割合 (%)	関係内容
(連結子会社) ㈱レーベンコミュニティ	東京都豊島区	60	不動産管理事業(注)	100.0	役員の兼任あり
㈱タフコ	東京都新宿区	10	融資回収事業	100.0	役員の兼任あり
丸の内債権回収㈱	東京都豊島区	600	債権管理回収事業	99.0	役員の兼任あり
(持分法適用関連会社) ㈱アズパートナーズ	東京都千代田区	40	介護事業	30.0	設備の賃借あり

(注) 主要な事業の内容欄には、セグメントの名称を記載しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成24年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数 (人)
不動産販売事業	351 (66)
不動産賃貸事業	
不動産管理事業	
その他	
合計	351 (66)

(注) 1. 従業員数は、就業人員であります。

2. 従業員数欄の () 内は外書で、臨時従業員の年間平均雇用人数 (1人あたり1日8時間換算) であります。

3. 当社の企業集団は事業の種類毎の経営組織体系を有しておらず、同一の従業員が複数の事業の種類に従事しております。

(2) 提出会社の状況

平成24年3月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
200（19）	33.7	5.2	6,028,668

セグメントの名称	従業員数（人）
不動産販売事業	200（19）
不動産賃貸事業	
その他	
合計	200（19）

- (注) 1. 従業員数は、就業人員数であります。
2. 従業員数欄の（ ）内は外書で、臨時従業員の年間平均雇用人員数（1人あたり1日8時間換算）であります。
3. 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
4. 当社は事業の種類毎の経営組織体系を有しておらず、同一の従業員が複数の事業の種類に従事しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【業績等の概要】

(1)業績

当連結会計年度における日本経済は、平成23年3月に発生した東日本大震災による影響から徐々に回復基調にあるものの、欧州諸国の財政問題を発端とした急激な円高の進行、国内における政治の不安定さ等により、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

そのような中、当社の属する分譲マンション業界におきましては、一部湾岸エリアにて液状化等の被害があり、敬遠される動きが見られたものの、当社の得意とする内陸郊外エリアでは、各種住宅取得優遇政策や住宅ローン金利の低下等から、安定的かつ根強い住宅需要が続いており、リーマンショックからの回復基調を強めております。

そして、太陽光発電を中心とした自然エネルギーが脚光を浴びるなど、顧客ニーズに大きな変化が見られた1年でありました。

このような状況下にあつて、当社は、自社企画新築分譲マンション「レーベン」シリーズをメインブランドとし、一貫したコンセプトである「誰もが無理なく安心して購入できる理想の住まい」を常に心がけながら、「幸せを考える。幸せをつくる。」を企業ビジョン、また、「感動する心・誠実な姿勢・実行する力」を企業ミッションとし、「戸別売電可能な太陽光マンション」を首都圏、「戸別蓄電付き売電可能太陽光マンション」を全国で、初めて供給する等、時代背景を的確に捉えた商品企画に取り組み、お客様を重視した企業活動を推進してまいりました。

以上の結果、グループ全体の当連結会計年度の売上高は55,191百万円（前年同期比17.7%増）、営業利益は5,930百万円（前年同期比12.2%減）、経常利益は5,071百万円（前年同期比8.2%減）、当期純利益は3,681百万円（前年同期比27.6%減）となっております。

なお、セグメント別の業績は以下のとおりとなっております。

（不動産販売事業）

新築分譲マンション1,292戸の売上高44,354百万円、新築戸建分譲、リニューアル及びリセール事業等の売上高5,926百万円により、当事業売上高は50,281百万円（前年同期比19.9%増）となっております。

（不動産賃貸事業）

賃貸マンション、その他事務所及び店舗等の賃貸収入により、当事業売上高は1,419百万円（前年同期比0.5%減）となっております。

（不動産管理事業）

管理戸数29,254戸等からの管理収入により、当事業売上高は2,282百万円（前年同期比6.7%増）となっております。

（その他事業）

不動産販売代理受託手数料及び修繕工事の受注による収入等により、当事業売上高は1,206百万円（前年同期比11.9%減）となっております。

(2)キャッシュ・フロー

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ、7,986百万円増加し、17,377百万円となっております。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動による資金の増加は11,464百万円（前連結会計年度は7,897百万円の増加）となっております。これは主に税金等調整前当期純利益及び仕入債務の増加によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動による資金の減少は792百万円（前連結会計年度は1,032百万円の減少）となっております。これは主に固定資産の取得によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動による資金の減少は2,685百万円（前連結会計年度は1,191百万円の減少）となっております。これは主に借入金の返済によるものであります。

(3) 戦略的現状と見通し

<戦略概要>

平成25年3月期までを対象とした中期経営計画である「Takara Leben Building Action 2011」にて、「再成長へ向けた戦略、戦術の再構築」をテーマに掲げ、2期目である当期を終え、順調に進捗しているものと考えております。当社は、次期より新たな成長ステージに入って行くものと考え、一年前倒しし、新中期経営計画の策定を予定しております。

<具体戦略>

A. 概要

- ・地盤エリアでの優位性の発揮

仕入戦略・商品戦略・販売戦略・財務戦略を強化することにより、独自の優位性を発揮していきます。

- ・絶対的収益基盤の再構築

コア事業である新築分譲マンション事業で収益基盤を確立するとともに、短期回収事業等での収益補充や強固な収益体質の確立も行います。

- ・安定した事業サイクルと財務戦略

仕入の厳選、安定した販売回収計画による事業サイクルの再構築、そして間接金融だけに頼らない財務戦略等の施策を総合的に行います。

B. 個々の戦略

① 商品戦略

a) エリア戦略

各エリアにおける需給バランスを考慮し、特に狭域のお客様から支持される供給を心がけます。

b) 規模戦略

各エリアにおける需給バランスを重視し、適正規模による供給に努めます。

c) 価格戦略

エリア毎の属性分析を細かく行い、各エリアの第一次取得者目線にあった価格での供給を心がけます。

② 販売戦略

時代背景を的確に捉えた商品を企画し、きめ細かな販売を通じて、末永くお客様と一緒に歩んで行けるように心がけます。

a) 販売体制

自社販売体制を活かし、よりスピード感を持った販売に努めます。また、自社販売ならではの、きめ細かな販売を通じ、顧客満足度の向上を目指します。

b) インターネット営業

特に当社のメインターゲットである20代後半から30代における一次取得者において、インターネットは日常の一部となってきたことから、当社では、インターネット営業をさらに強化すべく取り組んでまいります。

当期において、資料請求数は前年対比1.1%増加、モデルルーム来場者数は前年対比8.9%増加した結果、ホームページを介した契約数は11.2%増加し、全契約数の68.3%と十分な力を発揮しつつあります。

c) レーベン倶楽部

レーベン倶楽部では、会員専用ページの充実を図り、よりタイムリーに情報を発信することで、当社物件をご支持いただけるよう努めてまいります。

d) 法人提携（企業イントラネット広告）

法人提携では、提携企業先のニーズに合った様々な情報発信サービスを模索しながら、より認知度を高めるべく、積極的な取り組みを実施してまいります。

現在では、提携企業数が160社約450万人、当期の提携企業からの顧客紹介数は266件、そのうち72件が契約となっており、十分な法人提携の力が発揮されつつあります。

e) 建築企画戦略

お客様の声を反映した建築戦略を主眼とし、時代背景に則した住空間の提供を目指しております。

当社は、自然エネルギーの利用、そして安全・安心の観点から「戸別売電可能な太陽光発電マンション」、これに蓄電池を組み合わせた、日本初「戸別蓄電付き売電可能太陽光マンション」等を積極的に企画開発しております。

また、当社物件で標準装備となっております、生活基盤である“水”をテーマとした『LUIC PROJECT』における、浄活水システム「たからの水」及び日本初である一般家庭用ビルトインタイプの浴室マイクロバブル装置「たからのマイクロバブル」は、大変好評を頂いております。

今後も、よりお客様のニーズに合った住空間の提供に努めてまいります。

C. 多様化商品戦略

① 戸建事業戦略

当社では、前期より自社施工による戸建住宅の供給を開始しております。低価格で高品質な住宅を供給することで、当社の一貫したコンセプトである「誰もが無理なく安心して購入できる理想の住まい」を実現するとともに、短期回収事業として新築分譲マンション事業を補完していきたいと考えております。

今後に関しましては、注文住宅等を含め、市場動向を見極めながら展開していく予定であります。

② リニューアル事業戦略

リニューアル事業については、物件を厳選した上で事業化しているため、数多くは事業化できませんが、「ル・アール」シリーズとしての実績も認知されつつあり、安定的に供給をしていきたいと考えております。

また、リニューアル物件は、新築分譲マンションとは一線を画した顧客ニーズがあることから、新築分譲マンションの補完的役割だけでなく、発展的事業として位置付け、戸建事業同様に短期回収のメリットが期待できる事業モデルであると考えております。

③ リセール事業戦略（買取再販事業）

新築分譲マンション事業の補完的役割として実施しておりますリセール事業では、短期回収事業の優位性を発揮しておりますが、期間限定的な事業と捉え市場環境を的確に判断しながら、適正な販売価格と仕入のバランスを考慮し、事業展開を見極めていきたいと考えております。

④ 収益物件戦略

収益物件においては、厳選した仕入を行い、より安定的なストック事業としていきたいと考えております。

D. グループ戦略

外部環境に左右されない強固な企業グループを築いていくため、よりグループ間の情報交流を活発化させ、シナジー効果を発揮できる体制構築を目指しております。特に、主力事業である新築分譲マンション事業はフロービジネスであることから、ストックビジネスである賃貸、管理及び介護事業等を拡大していくことが、今後の必須課題と考えております。

㈱レーベンコミュニティは、中期での目標管理戸数を30,000戸と掲げているのに対し、当期末において29,254戸を既に獲得しております。今後、お客様の満足度を向上させるべく、更なるきめ細かいサービスを実施するとともに、的確にお客様ニーズを把握し、グループ各社に情報を発信していくことが重要と考えております。

㈱タフコは、手数料収入等の安定的事業開拓に向けたグループ間の連携強化が、最重要課題と考えております。

丸の内債権回収㈱においては、債権担保である不動産の評価、加工及び処分等でシナジーを発揮できる体制構築が、最重要課題であると考えております。

2【生産、受注及び販売の状況】

(1) 売上高の状況

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)	前年同期比 (%)
不動産販売事業 (百万円)	50,281	119.9
不動産賃貸事業 (百万円)	1,419	99.5
不動産管理事業 (百万円)	2,282	106.7
報告セグメント計 (百万円)	53,984	118.6
その他 (百万円)	1,206	88.1
合計 (百万円)	55,191	117.7

- (注) 1. セグメント間の取引については、相殺消去しております。
2. 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 期中契約戸数

セグメントの名称	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)		当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)		前年同期比 (%)
	戸数	金額 (百万円)	戸数	金額 (百万円)	
不動産販売事業	1,723	56,364	1,852	59,721	106.0
合計	1,723	56,364	1,852	59,721	106.0

- (注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

(3) 契約残高

セグメントの名称	前連結会計年度末 (平成23年 3月 31日現在)		当連結会計年度末 (平成24年 3月 31日現在)		前年同期比 (%)
	戸数	金額 (百万円)	戸数	金額 (百万円)	
不動産販売事業	760	25,384	1,092	34,824	137.2
合計	760	25,384	1,092	34,824	137.2

- (注) 上記金額には消費税等は含まれておりません。

3【対処すべき課題】

サブプライムローン問題及びリーマンショックの影響により、当社におきましても、平成21年3月期末にたな卸資産の評価損等により大幅赤字を計上しました。

当社では、基本コンセプトである「誰もが無理なく安心して購入できる理想の住まい」という原点に立ち返り、時代背景を捉え、お客様を重視した各種施策を実施したことにより、業績が回復し、現預金残高及び自己資本は過去最高の水準となっております。

今後も、外部環境の急激な変化にも自社の企業体力で乗り切れる体制を構築すべく、「安定した収益性の確保」と「財務体質の更なる強化」を推し進めてまいります。

また、バブル崩壊やリーマンショック等の幾多の厳しい局面を乗り越えてきた経験と実績をもとに、時代背景や社会的意義を機敏に捉え、スピード感を持った経営を行っていくことで、持続可能な企業を目指してまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの経営成績、株価及び財務状況等に影響を及ぼす可能性のあるリスクには、次のようなものがあります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

a) 地震等の天災について

地震等の天災により、当社及び当社発注先の建設会社等に直接被害があった場合、建設会社において建築資材の調達が困難になった場合等、工事遅延及び当社の販売回収に影響を及ぼす可能性があります。その場合には、当社グループの業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

b) 法的規制について

当社グループの事業は、国土利用計画法、宅地建物取引業法、建築基準法、都市計画法、貸金業の規制等に関する法律、マンションの管理の適正化の推進に関する法律、介護保険法等、各種法令のほか各自治体が制定した条例等による規制を受けております。これらの法的規制や条例等が新たに制定されたり、改定された場合には新たな負担が発生し、当社グループの業績や事業展開に影響を与える可能性があります。

c) 借入金への依存度について

当社グループは、マンション用地等の仕入資金を主に金融機関からの借入により調達しており、当連結会計年度末における総資産に占める有利子負債の割合は45.8%となっております。金融情勢の悪化等により、資金調達に制約を受けた場合及び金利が急激に上昇した場合、当社グループの業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

d) 購入者マインドの影響について

当社グループの主力事業であります新築分譲マンションは、購入者マインドに左右される傾向があります。購入者マインドは景気動向、住宅税制、消費税、地価動向、金利動向等の影響を受け、購入者マインドが大きく低下する事態が生じた場合には、当社グループの業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

e) 住宅ローンの影響について

マンション等の販売において、お客様が住宅金融支援機構や金融機関の住宅ローンを利用することが多くありますが、金融情勢の変化等により、これに関する融資姿勢が著しく消極的になった場合には、当社グループの業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

f) 供給動向の影響について

当社グループの主力事業であります新築分譲マンションは、土地の仕入価格、外注業者の外注価格の変動、金融動向等の理由により、供給動向が左右される傾向があります。それらの理由により、供給動向が大きく影響を受ける事態が生じた場合には、当社グループの業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

g) 競合等の影響について

当社グループは、首都圏及び首都圏郊外において不動産分譲事業を行っておりますが、当該エリアにおいて、過度な価格競争が生じた場合には、販売活動期間の長期化及び想定価格での販売が困難となる等の可能性があります。その場合には、当社グループの業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

h) 建築費について

当社グループはマンション建築を建設業者へ発注しておりますが、建築資材の価格や工事労務費の高騰により、工事請負金額が上昇した場合には、利益率が低下する可能性があり、当社グループの業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

i) 外注業者の破綻について

建築工事の発注先である建設会社が経営破綻した場合、工事遅延や請負契約の不履行等が発生する可能性があります。また、将来における建設会社が請け負うべき保証責任が履行されない場合には、当社グループの業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

j) マンション建設に際しての周辺住民の反対運動について

マンション建設にあたっては、建設地の周辺環境に配慮し、関係する法律や自治体の条例等を検討して開発計画を立てるとともに、事前に周辺住民に実施する説明会等で理解を頂戴するようしておりますが、建設中の騒音、日照問題、環境問題等を理由に、周辺住民による反対運動が起きる場合があります。その場合に計画の変更、工事期間の延長、追加費用の発生等が生じ、当社グループの業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

k) 訴訟等の可能性について

マンション建設にあたっては、様々な観点から慎重な検討を行っておりますが、建物の瑕疵、土壌汚染等による訴訟の発生及びこれらに起因する建築計画の変更等が発生する可能性があります。その場合には、当社グループの業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

l) 個人情報について

当社グループは、マンション等の販売、管理に関し多量の個人情報を取り扱っております。個人情報の取り扱い及び管理については、個人情報漏洩防止ソフトの導入、規程の整備、社員向けマニュアルの作成、研修を行う等、細心の注意を払っておりますが、万一個人情報が漏洩した場合には、当社グループの業績や財政状態に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

該当事項はありません。

7【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。この連結財務諸表の作成に当たりまして、決算日における資産・負債の報告数値及び偶発資産・債務の開示並びに報告期間における収益・費用の報告数値に影響を与える見積り及び仮定設定を行っております。当該見積り及び仮定設定に対して、過去の実績や状況に応じ合理的だと考えられる様々な要因に基づき、見積り及び判断を行い、その結果は、他の方法では判定しにくい資産・負債の簿価及び収益・費用の報告数値についての判断の基礎となります。実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

(2) 当連結会計年度の経営成績・財政状態の分析

① 当連結会計年度の経営成績の分析

a) 概況説明

(株)タカラレーベン単体では、新築分譲マンション事業において、首都圏初の「戸別売電可能な太陽光発電マンション」である「レーベンハイム光が丘公園」や、富山市にて中心市街地活性化法の認定第一号プロジェクトである「LUCIDA TOWER」等を含む1,290戸の引渡を行いました。粗利益率は22.2%となっており、当初計画通り安定的な利益を計上しております。また、2011年の首都圏新築マンション供給戸数ランキングにおいて、当社は過去最高順位である第6位となっております。

戸建分譲事業においては、自社施工体制が確立され、198戸の引渡を行いました。今後も安定的な供給に取り組んでいきたいと考えております。

リニューアル及びリセール事業においては、当初計画通りに進捗いたしました。今後も、市場動向を的確に判断しながら、適正価格での仕入を行い、新築分譲マンション事業を補完すべく取り組んでいきたいと考えております。

不動産賃貸事業においては、ほぼ計画通りの進捗となっております。

こうしたことから、単体における通期業績は、売上高51,502百万円、営業利益5,474百万円、経常利益4,685百万円、当期純利益3,552百万円となっております。

(株)レーベンコミュニティでは、受託管理戸数が29,254戸となり、着実に受託管理戸数を増加させております。特に当期増加分のうち、他社からの受託管理戸数が60.8%を占めており、他社物件獲得の営業努力が着実に成果を上げております。また、リフォーム、物販及び工事受注等周辺事業も着実に伸びております。

(株)タフコでは、安定した手数料収入により、ほぼ計画通りに進捗しております。

(株)アズパートナーズでは、介護事業において9施設が稼働中であり、稼働率は92.0%と順調に推移しております。

なお、(株)タカラライブネット（現(株)ライブネットホーム）は、平成23年9月末日に株式を売却し、連結対象から除外しております。

以上の結果、グループ全体の通期業績は、売上高55,191百万円、営業利益5,930百万円、経常利益5,071百万円、当期純利益3,681百万円となっております。

b) 項目別説明

(売上高)

不動産販売事業においては、新築分譲マンション1,292戸、新築戸建分譲、リニューアル及びリセール事業等により、50,281百万円となっております。

不動産賃貸事業においては、賃貸マンション、その他事務所及び店舗等の賃貸収入により、1,419百万円となっております。

不動産管理事業においては、管理戸数29,254戸等からの管理収入により、2,282百万円となっております。

その他事業においては、不動産販売代理受託手数料及び修繕工事の受注による収入等により、1,206百万円となっております。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は55,191百万円と前年同期比17.7%の増加となっております。

(売上原価)

不動産販売事業における引渡戸数が1,292戸と前連結会計年度より203戸増加したこと等により、41,700百万円と前年同期比26.1%の増加となっております。

(販売費及び一般管理費)

販売費及び一般管理費は、前期に引き続き削減策を徹底しておりますが、契約進捗率の増加、引渡戸数が増加したこと等による販売経費の増加により、7,560百万円と前年同期比6.9%の増加となっております。

(営業外損益)

営業外収益は、手数料収入等により、155百万円と前年同期比8.7%の減少となっております。

営業外費用は、プロジェクト資金の借入金返済に伴う支払利息の減少等により、1,014百万円と前年同期比27.6%の減少となっております。

(特別損益)

特別損失は、減損損失の計上及び訴訟関連費用の発生等により、375百万円と前年同期比21.2%の増加となっております。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は55,191百万円（前年同期比17.7%増）、営業利益は5,930百万円（前年同期比12.2%減）、経常利益は5,071百万円（前年同期比8.2%減）、当期純利益は3,681百万円（前年同期比27.6%減）となりました。

② 当連結会計年度の財政状態の分析

当社グループの当連結会計年度の資産・負債・純資産の状況は、現金及び預金の増加や新規仕入に伴うたな卸資産の増加等により、総資産は70,277百万円と前連結会計年度末に比べ9,222百万円増加しております。

(流動資産)

現金及び預金の増加や新規仕入に伴うたな卸資産の増加等により、流動資産は50,919百万円と前連結会計年度末に比べ8,991百万円増加しております。

(固定資産)

事業用資産を購入したこと等により、固定資産は19,357百万円と前連結会計年度末に比べ231百万円増加しております。

(流動負債)

契約進捗による前受金の増加や工事代の支払いに伴う支払手形及び買掛金の増加等により、流動負債は37,372百万円と前連結会計年度末に比べ9,221百万円増加しております。

(固定負債)

長短区分の振替等により、固定負債は11,765百万円と前連結会計年度末に比べ2,775百万円減少しております。

(純資産)

当期純利益の計上により、純資産の合計は21,138百万円と前連結会計年度末に比べ2,776百万円増加しております。

③ 当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況の分析

当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況については、第2 事業の状況・1 業績等の概要(2)をご参照下さい。

(3) 経営成績に重要な影響を与える要因について

当社グループの主力であります不動産販売事業は、購入者マインド及び供給者の供給動向に左右される傾向があります。購入者マインドは、景気動向、金利動向、住宅税制、消費税、地価動向等の影響を受け、また、供給者の供給動向は、土地の仕入代、ゼネコン等外注業者の外注価格の変動、外注業者の破綻、金融動向の影響を受けやすいことから、これらの動向が変動した場合には、経営成績に重要な影響を与える可能性があります。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当連結会計年度において実施いたしました設備投資等の総額は805百万円であり、主なものは、不動産賃貸事業に係る事業用資産の取得398百万円等であります。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は次のとおりであります。

(1) 提出会社

平成24年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
本社 (東京都新宿区)	不動産販売 事業	統括業務施設	14	— (—)	177	62	254	200 (19)
宝マンション 他 (東京都板橋区 他)	不動産賃貸 事業	賃貸用マンシ ョン 賃貸店舗、 事務所	4,310	13,332 (70,066.46)	37	224	17,904	— (—)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、借地権、ソフトウェアであります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2. 従業員数欄の()内は外書で、臨時従業員の年間平均雇用人数(1人あたり1日8時間換算)であります。

(2) 国内子会社

平成24年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	帳簿価額					従業員数 (人)
				建物及び 構築物 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース 資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
㈱レーベンコミュニティ	本社 (東京都豊島区)	不動産管理事 業	統括業務施設	51	— (—)	1	12	64	148 (47)
㈱タフコ	本社 (東京都新宿区)	融資回収事業	統括業務施設	0	— (—)	4	0	4	1 (—)
丸の内債権回収㈱	本社 (東京都豊島区)	債権管理回収 事業	統括業務施設	0	— (—)	—	1	2	2 (—)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品、ソフトウェアであります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2. 従業員数欄の()内は外書で、臨時従業員の年間平均雇用人数(1人あたり1日8時間換算)であります。

(3) 在外子会社

該当事項はありません。

3【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

該当事項はありません。

(2) 重要な設備の除却等

該当事項はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	62,000,000
計	62,000,000

②【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (平成24年3月31日)	提出日現在発行数(株) (平成24年6月22日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	33,386,070	33,386,070	東京証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は100 株であります。
計	33,386,070	33,386,070	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成19年4月1日～ 平成20年3月31日 (注)	337,242	17,540,333	172	2,442	172	2,440
平成22年4月1日～ 平成23年3月31日 (注)	15,845,737	33,386,070	2,376	4,819	2,376	4,817

(注) 新株予約権の行使による増加であります。

(6) 【所有者別状況】

平成24年3月31日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）							単元未満株式の状況（株）	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数（人）	—	31	23	86	84	2	6,298	6,524	—
所有株式数（単元）	—	79,586	2,885	12,269	76,172	2	162,926	333,840	2,070
所有株式数の割合（%）	—	23.84	0.86	3.68	22.82	0.00	48.80	100.00	—

（注）1. 自己株式数2,451,871株は、「個人その他」に24,518単元及び「単元未満株式の状況」に71株を含めて記載しております。

2. 「その他の法人」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が4単元含まれております。

(7) 【大株主の状況】

平成24年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数（千株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
村山 義男	東京都板橋区	8,400	25.16
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	東京都中央区晴海1丁目8番11号	2,744	8.21
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	東京都港区浜松町2丁目11番3号	2,626	7.86
株式会社タカラレーベン	東京都新宿区西新宿2丁目6番1号	2,451	7.34
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ フィデリティ ファンズ（常任代理人香港上海銀行東京支店）	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK（東京都中央区日本橋3丁目11番1号）	1,308	3.91
チェース マンハッタン バンク ジーティーエス クライアーツ アカウント エスクロウ（常任代理人株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部）	5TH FLOOR, TRINITY TOWER 9, THOMAS MORE STREET LONDON, E1W 1YT, UNITED KINGDOM（東京都中央区月島4丁目16番13号）	802	2.40
シービーロンドンアールイーファン ド116（常任代理人シティバンク銀行株式会社）	MINISTRIES COMPLEX, BLOCK 3, 2ND FLOOR, PO BOX 64, 13001 SAFAT-KUWAIT（東京都品川区東品川2丁目3番14号）	776	2.32
メロン バンク トリーティー クライアーツ オムニバス（常任代理人株式会社みずほコーポレート銀行決済営業部）	ONE BOSTON PLACE BOSTON, MA 02108（東京都中央区月島4丁目16番13号）	556	1.66
有限会社村山企画	東京都板橋区成増4丁目33番10号	500	1.49
大田 宜明	佐賀県唐津市	475	1.42
計	—	20,641	61.82

- (注) 1. 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は 2,744千株であります。
2. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は 2,626千株であります。
3. フィデリティ投信株式会社から、平成24年3月21日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成24年3月13日現在で4,400千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、フィデリティ投信株式会社的大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。
- | | |
|---------|---------------------------|
| 大量保有者 | フィデリティ投信株式会社 |
| 住所 | 東京都港区虎ノ門4丁目3番1号 城山トラストタワー |
| 保有株券等の数 | 株式 4,400,100株 |
| 株券等保有割合 | 13.18% |
4. 日興アセットマネジメント株式会社から、平成24年3月22日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成24年3月15日現在で1,703千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、日興アセットマネジメント株式会社的大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。
- | | |
|---------|------------------|
| 大量保有者 | 日興アセットマネジメント株式会社 |
| 住所 | 東京都港区赤坂9丁目7番1号 |
| 保有株券等の数 | 株式 1,703,700株 |
| 株券等保有割合 | 5.10% |
5. 中央三井アセット信託銀行株式会社から、平成24年3月22日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成24年3月15日現在で646千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、中央三井アセット信託銀行株式会社的大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。
- | | |
|---------|------------------|
| 大量保有者 | 中央三井アセット信託銀行株式会社 |
| 住所 | 東京都港区芝3丁目23番1号 |
| 保有株券等の数 | 株式 646,500株 |
| 株券等保有割合 | 1.94% |
6. 住友信託銀行株式会社から、平成24年3月22日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成24年3月15日現在で355千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、住友信託銀行株式会社的大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。
- | | |
|---------|------------------|
| 大量保有者 | 住友信託銀行株式会社 |
| 住所 | 大阪府中央区北浜4丁目5番33号 |
| 保有株券等の数 | 株式 355,400株 |
| 株券等保有割合 | 1.06% |
7. 中央三井アセットマネジメント株式会社から、平成24年3月22日付の大量保有報告書の写しの送付があり、平成24年3月15日現在で101千株を保有している旨の報告を受けておりますが、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記大株主の状況には含めておりません。
- なお、中央三井アセットマネジメント株式会社的大量保有報告書の内容は以下のとおりであります。
- | | |
|---------|--------------------|
| 大量保有者 | 中央三井アセットマネジメント株式会社 |
| 住所 | 東京都港区芝3丁目23番1号 |
| 保有株券等の数 | 株式 101,100株 |
| 株券等保有割合 | 0.30% |

(8) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成24年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 2,451,800	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 30,932,200	309,322	同上
単元未満株式	普通株式 2,070	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	33,386,070	—	—
総株主の議決権	—	309,322	—

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれております。また、「議決権の数」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数4個が含まれております。

② 【自己株式等】

平成24年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数(株)	他人名義 所有株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数の割合 (%)
(株)タカラレーベン	東京都新宿区西新宿二丁目6番1号	2,451,800	—	2,451,800	7.3
計	—	2,451,800	—	2,451,800	7.3

(9) 【ストックオプション制度の内容】

(平成24年6月22日定時株主総会決議)

会社法第361条の規定に基づき、当社取締役を対象に、株式報酬型ストックオプション(新株予約権)制度を導入することを平成24年6月22日開催の第40期定時株主総会において決議いたしました。

決議年月日	平成24年6月22日
付与対象者の区分及び人数	当社取締役 8名
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
株式の数	(注) 1
新株予約権の行使時の払込金額	新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、新株予約権の行使により交付を受けることができる株式1株当たり1円とし、これに付与株式の総数を乗じた金額とします。
新株予約権の行使期間	新株予約権の割当日の翌日から40年以内の範囲で当社取締役会が定める期間とします。
新株予約権の行使の条件	(注) 2
新株予約権の譲渡に関する事項	譲渡による新株予約権の取得については、当社の取締役会の承認を要するものといたします。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—
その他	上記の細目及びその他の新株予約権の内容につきましては、当社取締役会において決定するものとします。

(注) 1. A種新株予約権とB種新株予約権(以下「新株予約権」と総称します。)あわせて1,200個を、各事業年度内に発行する新株予約権の総数の上限とします。

新株予約権の目的となる株式の種類は当社普通株式とし、新株予約権1個当たりの目的となる株式数(以下「付与株式数」といいます。)は100株とします。

なお、新株予約権の割当日後に当社が当社普通株式の株式分割又は株式併合を行う場合には、次の算式により付与株式数の調整を行い、調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てます。

調整後付与株式数 = 調整前付与株式数 × 株式分割又は株式合併の比率

また、新株予約権の割当日後に当社が合併、会社分割を行う場合、株式無償割当てを行う場合、その他これらに準じて付与株式数の調整を必要とする場合には、合理的な範囲内で付与株式数は適切に調整されるものとします。ただし、本号における調整は、新株予約権のうち、当該時点において権利行使されていない新株予約権の目的たる株式の数についてのみ行われます。

当社普通株式120,000株を、各事業年度内に発行する新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式数の上限とします。

2. [A種新株予約権]

新株予約権者は、新株予約権の発行日以降、当該新株予約権者に割当てられた新株予約権を全て行使できるものとします。

[B種新株予約権]

① 新株予約権者は、当該新株予約権者が当社の取締役及び執行役員のいずれの地位も喪失した日の翌日以降、当該新株予約権者に割当てられた新株予約権を行使できるものとします。

② 上記①にかかわらず、新株予約権者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該新株予約権者に割当てられた新株予約権を行使できないものとします。

(i) 新株予約権者の死亡以外の事由(割当日から3年以内にあつては下記(ii)に規定する退任等の場合を除きます。)によって、新株予約権者が当社の取締役及び執行役員のいずれの地位も喪失し、喪失した日の翌日から10日を経過した場合

(ii) 新株予約権の割当日から3年以内に、新株予約権者が退任等(自己都合による退任若しくは退職、又は当社の株主総会決議若しくは取締役会決議による解任若しくは懲戒処分をいいます。)によって当社の取締役及び執行役員のいずれの地位も喪失した場合

その他の権利行使の条件については当社取締役会において決定するものとします。

当社は、当社業績及び株式価値と給与の連動性をより明確にし、中長期的な業績向上と企業価値向上への貢献意欲などを一層高めることを目的に、上記新株予約権の内容と同内容の新株予約権を、当社の執行役員に対し当社が必要と判断する個数を、当該新株予約権の公正価値を基準として決定される金額を払込金額として発行する予定であります。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
取締役会(平成23年7月25日)での決議状況 (取得期間 平成23年7月26日～平成24年3月31日)	2,000,000	1,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	1,469,100	595,523,700
残存決議株式の総数及び価額の総額	530,900	404,476,300
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	26.5	40.4
当期間における取得自己株式	—	—
提出日現在の未行使割合(%)	26.5	40.4

区分	株式数 (株)	価額の総額 (円)
取締役会(平成24年5月14日)での決議状況 (取得期間 平成24年5月15日～平成25年3月31日)	1,650,000	1,000,000,000
当事業年度前における取得自己株式	—	—
当事業年度における取得自己株式	—	—
残存決議株式の総数及び価額の総額	—	—
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	—	—
当期間における取得自己株式	202,200	117,724,200
提出日現在の未行使割合(%)	87.7	88.2

(注) 当期間における取得自己株式には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日(平成24年6月22日)までに取得した株式は含まれておりません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

該当事項はありません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)	株式数 (株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他 (—)	—	—	—	—
保有自己株式数	2,451,871	—	2,654,071	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、平成24年6月1日から有価証券報告書提出日(平成24年6月22日)までに取得した株式は含まれておりません。

3 【配当政策】

利益還元については、会社の最重要課題の一つとして位置付けており、事業展開と経営基盤の強化に必要な内部留保を確保しつつ、業績に応じた適正な配当を安定的、継続的に行うことを基本方針としております。

また、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当社は、「取締役会の決議により、毎年9月30日を基準として、中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

当期においては、外部環境の変化にも自社の企業体力で乗り切れる体制を構築すべく、「安定した収益性の確保」と「財務体質の再構築」を推し進めてまいりました。特に、収益性の面においては、厳格な収益性判断を前提とする事業計画及び着実なコスト低減の実現により、安定した収益性を確保することができております。その中で、今後の再成長のための内部留保とのバランスを考えた配当を行う予定であります。

今後も、安定経営を根幹としながらも、さらなる成長を目指す中で、配当についても基本方針通り業績に応じた配当を行ってまいります。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
平成23年10月24日 取締役会決議	126	4
平成24年6月22日 定時株主総会決議	278	9

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第36期	第37期	第38期	第39期	第40期
決算年月	平成20年3月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月
最高(円)	1,687	697	725 □450	748	779
最低(円)	518	135	146 □381	304	313

(注) 1. 最高・最低株価は東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

2. □印は、新株予約権(株主)無償割当て(平成22年3月29日)による権利落後の最高・最低株価を示しております。なお、権利落ち日の基準値段(平成22年3月29日)は、東京証券取引所の「呼値の制限値幅に関する規則」に基づき $[(\text{権利付最終値} - \text{配当金額} + \text{新株払込金額}) \div (1 + \text{新株割当率})]$ で計算されており、当該基準値段は $[(479\text{円} - 2\text{円} + 300\text{円}) \div (1 + 1)]$ により389円となっております。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成23年10月	11月	12月	平成24年1月	2月	3月
最高(円)	434	429	478	502	589	779
最低(円)	313	392	429	443	445	575

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	最高経営責任 者(CEO)	村山 義男	昭和20年8月28日生	昭和39年4月 山田建設株式会社入社 昭和46年10月 東横建設株式会社入社 昭和47年3月 築山工務店入社 昭和47年9月 当社設立 専務取締役 昭和48年3月 代表取締役社長 平成8年2月 株式会社レーベンコミュニティ 代表取締役 平成8年10月 株式会社レーベンコミュニティ 取締役 平成15年5月 代表取締役社長 兼リビングクリエイト総本部長 平成15年12月 代表取締役社長 平成24年4月 代表取締役社長兼最高経営責任者 (CEO)(現任)	(注)2	8,400
代表取締役 副社長	最高執行責任 者(COO) 兼 最高財務 責任者(CFO) 兼 総合 企画本部長	島田 和一	昭和40年12月4日生	昭和59年4月 日機工業株式会社入社 昭和62年5月 当社入社 平成8年4月 開発部長 平成10年6月 取締役 平成12年6月 常務取締役開発本部長、本社開発 部長兼建築部長 平成14年7月 常務取締役開発部長 平成15年5月 常務取締役開発本部長 兼本社建築部長 平成18年6月 代表取締役副社長兼開発本部長 平成19年5月 代表取締役副社長兼事業戦略室長 兼開発本部長 平成21年1月 代表取締役副社長兼総合企画本部 長兼経営企画室長 平成22年2月 代表取締役副社長兼総合企画本部 長 平成24年4月 代表取締役副社長兼最高執行責任 者(COO)兼最高財務責任者(CFO) 兼総合企画本部長(現任)	(注)2	148
常務取締役	執行役員戸 建本部長 兼 戸建建築部 長 兼 建築 営業部長	舟本 哲夫	昭和28年10月31日生	昭和51年4月 中央信託銀行株式会社(現三井住 友信託銀行株式会社) 入行 平成14年11月 当社入社 開発部部长 平成15年5月 開発部長 平成18年6月 取締役開発部長 平成20年8月 丸の内債権回収株式会社取締役 (現任) 平成21年1月 常務取締役開発本部長 平成21年4月 常務取締役開発本部長兼建築部長 平成22年4月 株式会社タフコ取締役(現任) 平成22年10月 常務取締役開発本部長兼建築部長 兼戸建事業部長 平成24年1月 常務取締役戸建本部長兼戸建建築 部長兼建築営業部長 平成24年4月 常務取締役兼執行役員戸建本部長 兼戸建建築部長兼建築営業部長 (現任)	(注)2	14

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役	執行役員営業本部長 兼 営業部長 兼 営業推進部長 兼 営業企画室長	岡部 剛	昭和39年12月29日生	平成3年4月 太平洋証券株式会社（現三菱UFJ証券株式会社）入社 平成10年4月 当社入社 平成15年5月 営業部長 平成17年11月 営業部長兼戸建事業部長 平成18年6月 取締役営業部長 平成21年3月 取締役営業本部長兼営業部長兼戸建事業部長兼統括部長兼お客様相談室長 平成22年4月 取締役営業本部長兼営業部長兼販売推進部長兼戸建営業部長兼統括部長 平成23年10月 取締役営業本部長兼営業部長兼戸建営業部長兼統括部長 平成24年1月 取締役営業本部長兼営業部長兼統括部長 平成24年4月 常務取締役兼執行役員営業本部長兼営業部長兼営業推進部長兼営業企画室長（現任）	(注) 2	11
取締役	執行役員経理部長 兼 財務部長	長谷川 隆彦	昭和30年8月14日生	昭和53年3月 株式会社第一相互銀行（現株式会社三井住友銀行）入行 平成11年8月 当社出向 財務部長 平成18年8月 当社入社 平成21年1月 執行役員経理部長 平成21年5月 執行役員経理部長兼財務部長 平成21年6月 株式会社タフコ取締役（現任） 平成21年6月 取締役経理部長兼財務部長 平成24年4月 取締役兼執行役員経理部長兼財務部長（現任）	(注) 3	7
取締役	執行役員開発本部長 兼 建築部長 兼 商品企画部長	手島 芳貴	昭和49年5月31日生	平成9年3月 当社入社 平成21年5月 開発本部開発部長 平成22年4月 執行役員開発本部開発部長 平成24年1月 執行役員開発本部長兼建築部長 平成24年4月 執行役員開発本部長兼建築部長兼商品企画部長 平成24年6月 株式会社アズパートナーズ監査役（現任） 平成24年6月 取締役兼執行役員開発本部長兼建築部長兼商品企画部長（現任）	(注) 2	2
取締役	執行役員経営企画室長	北川 智哉	昭和51年5月10日生	平成20年10月 株式会社シーケーシステム研究所（OAG税理士法人）入社 平成21年4月 当社入社 平成22年2月 経営企画室長 平成22年4月 執行役員経営企画室長 平成24年5月 株式会社レーベンコミュニティ取締役（現任） 平成24年6月 取締役兼執行役員経営企画室長（現任）	(注) 2	5
取締役	執行役員営業本部第一営業部長	原 忠行	昭和52年12月4日生	平成13年4月 株式会社モリモト入社 平成14年8月 当社入社 平成22年4月 営業本部第一営業部長 平成23年10月 執行役員営業本部第一営業部長 平成24年6月 取締役兼執行役員営業本部第一営業部長（現任）	(注) 2	0

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役		小林 邦雄	昭和25年7月29日生	昭和44年4月 商工組合中央金庫（現株式会社商工組合中央金庫）入庫 平成7年7月 同金庫函館支店 支店長 平成10年7月 同金庫川崎支店 支店長 平成13年3月 同金庫審査第1部 上席審査役 平成14年4月 株式会社技報堂 社長室長 平成16年5月 東金属株式会社 取締役群馬工場長 平成22年6月 当社常勤監査役（現任） 平成22年6月 丸の内債権回収株式会社 監査役（現任） 平成24年5月 株式会社レーベンコミュニティ 監査役（現任） 平成24年6月 株式会社タフコ監査役（現任）	(注)4	0
監査役		笠井 秀樹	昭和26年3月20日生	昭和49年4月 株式会社協和銀行（現株式会社りそな銀行）入行 平成7年4月 同行金町支店 支店長 平成12年9月 同行融資第二部 部長 平成15年3月 株式会社埼玉りそな銀行 執行役員 平成16年5月 りそな債権回収株式会社 専務取締役 平成20年6月 同社代表取締役社長 平成21年6月 昭和電線ホールディングス株式会社非常勤監査役（現任） 平成22年6月 当社監査役（現任） 平成22年6月 丸の内債権回収株式会社 常勤監査役（現任）	(注)4	1
監査役		太田 孝昭	昭和23年4月7日生	昭和48年4月 東京国税局入局 昭和63年5月 太田税務会計事務所（現OAG税理士法人）設立 所長 昭和63年5月 株式会社シーケーシー研究所設立 代表取締役（現任） 平成3年11月 株式会社ビジコム設立 代表取締役（現任） 平成19年1月 OAG税理士法人設立 代表社員（現任） 平成22年6月 株式会社イントランス取締役（現任） 平成24年6月 当社監査役（現任）	(注)5	-
計						8,591

- (注) 1. 監査役小林邦雄、笠井秀樹及び太田孝昭の3氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。
2. 平成24年6月22日開催の定時株主総会の終結のときから2年間
3. 平成23年6月21日開催の定時株主総会の終結のときから2年間
4. 平成22年6月22日開催の定時株主総会の終結のときから4年間
5. 平成24年6月22日開催の定時株主総会の終結のときから4年間

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、単に利益を追求するだけでなく、法令及び企業倫理を遵守し、企業社会の一員として社会的責任を果たすべきであると考えております。

また、当社では、株主・顧客・社員といった基本的なステークホルダーとの緊張ある関係を保ちながら、いかに満足してもらえるかを常に考え対応してまいります。加えて、その他多様なステークホルダーも含めた声をいかに事業に反映させ、企業は誰のために何を成すべきかを常に考え対応することが、結果として健全で効率的な安定した継続企業へと結びついていくものと考えております。

さらに、制度的な牽制機能に留まらず、指数あるいはシステムとして根を張らせることで、全社的な牽制作用が各人の意識とともに機能するよう努めてまいります。

コーポレート・ガバナンスに関する施策の実施状況

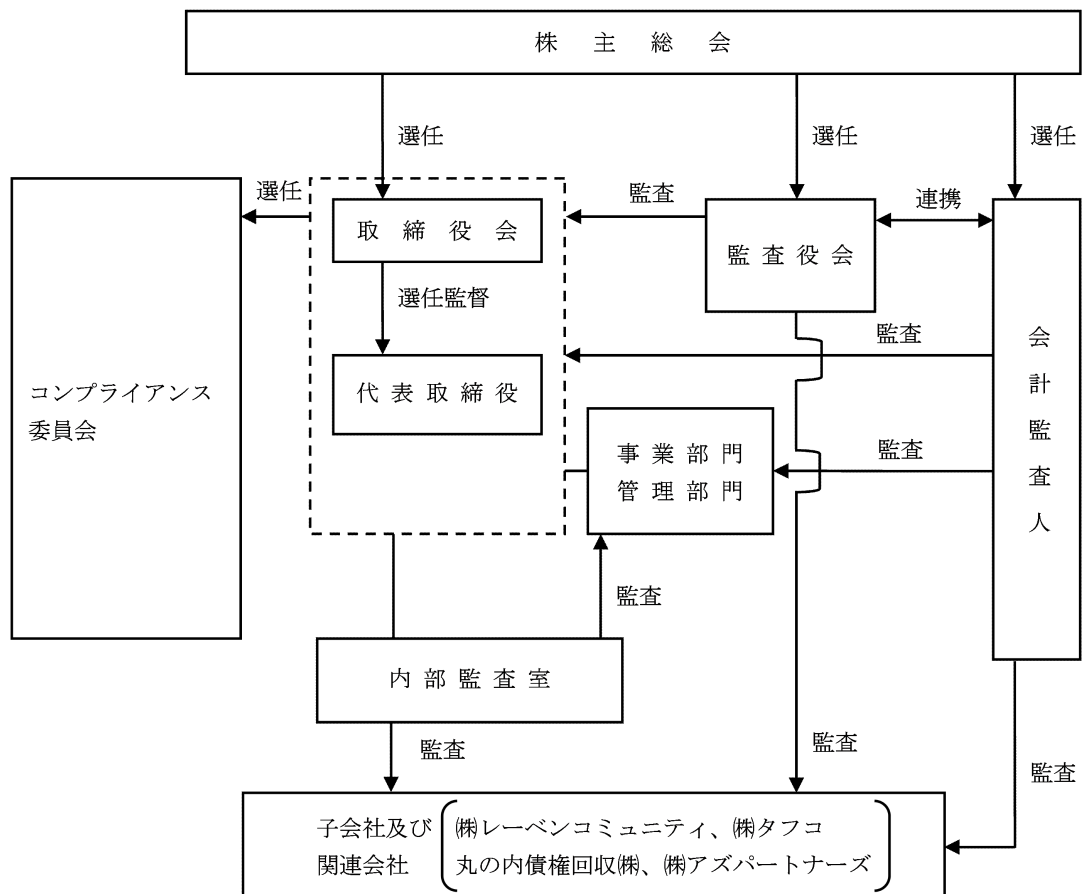
① 企業統治の体制

イ. 企業統治の体制の概要

当社は、業務執行状況の適切な監督・監査のため、取締役会による監督と、監査役による監査体制、そして執行役員制度により、取締役の経営監督責任と執行役員の業務執行責任を明確にする体制を採用しております。

取締役は現在8名であり、取締役会を原則月2回の頻度で開催し、また必要に応じ臨時取締役会を開催することで、慎重かつ迅速な意思決定を行うとともに業務執行状況を取締役相互に監督しております。

また当社は、監査役3名で構成される監査役会を設置しており、その全員を社外監査役とすることで、取締役会の運営状況や取締役の業務執行状況の、より適正な監査が行われる体制を確保しています。



ロ. 当該体制を採用する理由

当社は、業務の意思決定及びその執行を監督・監査し、当社グループ全体のリスク管理、コンプライアンスの徹底及び内部統制の向上を図る一方で、迅速な意思決定を行うことができる体制を確保するため、上記のような体制を採用しております。

ハ. 内部統制システムの整備の状況

当社は、「内部統制基本規程」を設け、当社及び連結子会社の業務の適正を確保する内部統制の基本整備、運用、評価、更新及びこれらに付帯する基本的事項と手続きについて定めております。

ニ. リスク管理体制の整備の状況

ア) リスク管理体制

当社は、代表取締役社長を委員長とする「コンプライアンス委員会」を設置し、経営全般に係るあらゆるリスクの検証と報告、及びこれらのリスクの回避や低減のために実施すべく施策や管理についての協議、または決定を行い、内部統制強化と財務報告を含む運営全般に係る不祥事やコンプライアンス欠如等の防止を徹底しており、またその小委員会として「事業戦略」、「財務」、「IT・事務」、「コンプライアンス」といった夫々の委員会を必要に応じ設けることにより、個別のリスク管理に応じた積極的な提案がなされる体制を構築しております。さらに、各小委員会での協議内容は、「コンプライアンス委員会規程」に基づき、適宜「コンプライアンス委員会」にて報告、検証をし、その内容に応じ取締役会への報告もすることで、リスク発生を想定した上での迅速な意思決定システムを構築しております。

イ) 反社会的勢力への対策

当社は、社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力に対して、断固とした姿勢で対応することを基本方針として、顧問弁護士の指導のもと、暴力団排除活動に積極的に参加しております。また所轄警察署及び顧問弁護士等の外部専門機関と連携し、反社会的勢力に対する体制を整備しております。反社会的勢力による被害を防止するため、平素より、警察署や関係機関が開催する反社会的勢力に関するセミナー等に参加するなど情報の収集に努めております。

また、取引先等に対しては「反社会的勢力との絶縁に関する覚書」の締結を依頼するとともに、企業活動の中で締結する各種契約書類には反社会的勢力排除に関する条項を盛り込む等、反社会的勢力排除に向けた対策を徹底して実践しております。

② 内部監査及び監査役監査の状況

当社の内部監査及び監査役監査の組織は、内部監査の充実及び強化を図るため、内部監査規定を制定し、社長直属の独立室として内部監査室（2名）を設置しております。内部監査の計画の立案及び実施にあたっては、監査役監査、会計監査人監査との調整を充分に行い、各機能の効率的運用が図られております。また、監査役は、内部監査人が実施する業務監査に同行し立ち会った上で、監査内容を確認し適宜意見聴取を行うなど、実効性と効率性のある監査体制を築くよう努めております。

③ 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、柳下敏男氏及び高橋秀彰氏であり、太陽A S G有限責任監査法人に所属しております。また、当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士3名、その他3名でした。なお、同監査法人及び当社監査に従事する同監査法人の業務執行社員との間には特別の利害関係はありません。また、業務執行社員は一定期間を超えて関与することのないような措置をとっております。同監査法人とは監査契約書を締結し、当該契約書に基づいた報酬の支払いをしております。

④ 社外取締役及び社外監査役

当社は社外取締役を選任していません。当社取締役の中には金融機関等の出身者が在籍しており、社外の視点を取り入れた業務執行が行われていると考えております。

社外監査役については、当社の監査役3名全員が社外監査役であります。社外監査役は、原則、当社と人的関係及び取引関係等を有しない者を選任する方針とし、その独立性を確保しております。なお、社外監査役太田孝昭氏は、当社が顧問契約を締結しておりますOAG税理士法人の代表社員ですが、同氏が当社の税務に関する業務には携わらないことを契約書上で明確にしております。その他の社外監査役と、当社との人的関係及び取引関係等はありません。

当社は、社外監査役との間で会社法第423条1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しており、当該契約に基づく損害賠償責任限度額は、法令が規定する最低責任限度額としております。

社外監査役は、取締役会をはじめとする重要な会議に出席すると共に、その立場から必要に応じた意見を述べるなど、取締役の業務執行状況を常に監査・監督しております。常勤監査役については、社内に精通し経営に対する理解が深く、監査の環境整備及び社内の情報収集に積極的に努め、かつ、内部統制システムの構築及び運用の状況を日常的に監視し、客観的な意見表明、助言を行っており、十分に経営の適正性が保たれているものと判断しております。

⑤ 役員報酬等

イ. 役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額 (百万円)				対象となる 役員の員数 (人)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	98	98	—	—	—	3
監査役 (社外監査役を除く。)	—	—	—	—	—	—
社外役員	13	13	—	—	0	4

ロ. 役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の内容及び決定方法

当社の役員報酬の決定に際しては、当社が持続的な成長を図っていくために、業績拡大及び企業価値向上に対する報奨として有効に機能することを目指しております。また、報酬額の水準につきましては、同業他社及び同規模の企業と比較の上、当社の業績に見合った水準を設定し、業績等に対する各取締役の貢献度に基づき報酬の額を決定しております。

⑥ 株式の保有状況

イ. 投資株式のうち保有目的が純投資目的以外の目的であるものの銘柄数及び貸借対照表計上額の合計額
10銘柄 133百万円

ロ. 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

前事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数 (数)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
菊水化学工業株	79,000	33	取引関係等の円滑化のため
株武蔵野銀行	10,000	26	取引関係等の円滑化のため
株東日本銀行	80,000	14	取引関係等の円滑化のため
株りそなホールディングス	20,000	7	取引関係等の円滑化のため
株八千代銀行	1,000	2	取引関係等の円滑化のため

当事業年度
特定投資株式

銘柄	株式数(数)	貸借対照表計上額(百万円)	保有目的
菊水化学工業株	79,000	36	取引関係等の円滑化のため
株武蔵野銀行	10,000	28	取引関係等の円滑化のため
株東日本銀行	80,000	15	取引関係等の円滑化のため
株りそなホールディングス	20,000	7	取引関係等の円滑化のため
株八千代銀行	1,000	2	取引関係等の円滑化のため

⑦ 取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨定款に定めております。

⑧ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。

⑨ 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

イ. 自己の株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款で定めております。これは、機動的な資本政策の遂行を可能とすることを目的とするものであります。

ロ. 中間配当

当社は、取締役会の決議により、毎年9月30日を基準日として、中間配当をすることができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を可能とすることを目的とするものであります。

ハ. 取締役及び監査役の実任免除

当社は、取締役及び監査役の実任免除について、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役がその期待される役割を十分に発揮できることを目的とするものであります。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める決議は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款で定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	36	4	34	1
連結子会社	1	—	1	—
計	37	4	35	1

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

当社は、太陽A S G有限責任監査法人に対して、「監査人から事務幹事証券会社への書簡」作成業務についての対価を支払っております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

当社は、太陽A S G有限責任監査法人に対して、「監査人から事務幹事証券会社への書簡」作成業務についての対価を支払っております。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査法人に対する監査報酬については、監査体制、監査日数等を勘案し監査役との協議のうえ、監査役会にて決定しております。

第5【経理の状況】

1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）の財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人により監査を受けております。

3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、又は会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、セミナー等へ参加しております。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 ① 【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,414	17,394
受取手形及び売掛金	416	377
販売用不動産	※2, ※3 5,259	※2, ※3 7,430
仕掛販売用不動産	※2, ※3 23,575	※2 22,863
繰延税金資産	885	290
その他	2,415	2,608
貸倒引当金	△38	△46
流動資産合計	41,928	50,919
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,759	6,856
減価償却累計額	△2,104	△2,319
建物及び構築物（純額）	※2, ※3 4,654	※2, ※3 4,537
工具、器具及び備品	175	169
減価償却累計額	△141	△139
工具、器具及び備品（純額）	※2 34	※2 29
土地	※2, ※3 13,259	※2, ※3 13,487
リース資産	8	53
減価償却累計額	△5	△13
リース資産（純額）	3	39
有形固定資産合計	17,951	18,095
無形固定資産		
リース資産	49	181
ソフトウェア仮勘定	63	—
その他	※2 372	※2 272
無形固定資産合計	484	453
投資その他の資産		
投資有価証券	137	150
長期貸付金	99	89
繰延税金資産	34	169
その他	※1 644	※1 616
貸倒引当金	△225	△217
投資その他の資産合計	689	808
固定資産合計	19,126	19,357
資産合計	61,054	70,277

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,785	※2 10,165
短期借入金	※2 3,720	※2 5,494
1年内返済予定の長期借入金	※2 16,960	※2 15,887
リース債務	21	62
未払法人税等	93	515
前受金	2,326	3,794
賞与引当金	176	197
完成工事補償引当金	—	59
その他	1,068	1,196
流動負債合計	28,151	37,372
固定負債		
長期借入金	※2 13,669	※2 10,774
リース債務	33	172
退職給付引当金	149	171
役員退職慰労引当金	81	76
資産除去債務	18	21
その他	587	548
固定負債合計	14,541	11,765
負債合計	42,692	49,138
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,819	4,819
資本剰余金	4,949	4,949
利益剰余金	9,905	13,266
自己株式	△1,295	△1,890
株主資本合計	18,380	21,145
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△18	△7
その他の包括利益累計額合計	△18	△7
純資産合計	18,361	21,138
負債純資産合計	61,054	70,277

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高	46,884	55,191
売上原価	※1 33,058	※1 41,700
売上総利益	13,826	13,490
販売費及び一般管理費	※2 7,069	※2 7,560
営業利益	6,757	5,930
営業外収益		
受取利息	23	5
受取配当金	3	3
受取手数料	85	87
持分法による投資利益	19	19
雑収入	37	39
営業外収益合計	170	155
営業外費用		
支払利息	1,181	979
株式交付費	126	—
雑損失	94	35
営業外費用合計	1,402	1,014
経常利益	5,525	5,071
特別利益		
貸倒引当金戻入額	24	—
賞与引当金戻入額	4	—
匿名組合清算益	1	—
過年度損益修正益	49	—
特別利益合計	79	—
特別損失		
固定資産除却損	※3 3	※3 6
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	10	—
投資有価証券評価損	8	10
出資金評価損	0	—
投資有価証券売却損	2	—
子会社株式売却損	—	49
減損損失	※4 251	※4 186
事務所移転費用	0	—
過年度税金	32	—
訴訟関連損失	—	※5 117
その他	0	5
特別損失合計	309	375
税金等調整前当期純利益	5,295	4,695
法人税、住民税及び事業税	140	571
法人税等還付税額	△12	—
法人税等調整額	83	442
法人税等合計	211	1,014
少数株主損益調整前当期純利益	5,083	3,681
当期純利益	5,083	3,681

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	5,083	3,681
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	2	11
その他の包括利益合計	2	※1 11
包括利益	5,086	3,692
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	5,086	3,692

③【連結株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日)		当連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	
株主資本				
資本金				
当期首残高		2,442		4,819
当期変動額				
新株の発行		2,376		—
当期変動額合計		2,376		—
当期末残高		4,819		4,819
資本剰余金				
当期首残高		2,572		4,949
当期変動額				
新株の発行		2,376		—
当期変動額合計		2,376		—
当期末残高		4,949		4,949
利益剰余金				
当期首残高		4,952		9,905
当期変動額				
剰余金の配当		△130		△320
当期純利益		5,083		3,681
当期変動額合計		4,953		3,361
当期末残高		9,905		13,266
自己株式				
当期首残高		△1,295		△1,295
当期変動額				
自己株式の取得		—		△595
当期変動額合計		—		△595
当期末残高		△1,295		△1,890
株主資本合計				
当期首残高		8,672		18,380
当期変動額				
新株の発行		4,753		—
剰余金の配当		△130		△320
当期純利益		5,083		3,681
自己株式の取得		—		△595
当期変動額合計		9,707		2,765
当期末残高		18,380		21,145

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△21	△18
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	11
当期変動額合計	2	11
当期末残高	△18	△7
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	△21	△18
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	11
当期変動額合計	2	11
当期末残高	△18	△7
純資産合計		
当期首残高	8,651	18,361
当期変動額		
新株の発行	4,753	—
剰余金の配当	△130	△320
当期純利益	5,083	3,681
自己株式の取得	—	△595
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	11
当期変動額合計	9,710	2,776
当期末残高	18,361	21,138

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,295	4,695
減価償却費	368	319
投資有価証券売却損益 (△は益)	2	—
減損損失	251	186
引当金の増減額 (△は減少)	85	137
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	10	—
受取利息及び受取配当金	△27	△9
株式交付費	126	—
投資有価証券評価損	8	10
子会社株式売却損益 (△は益)	—	49
訴訟関連損失	—	117
支払利息	1,181	979
固定資産除却損	3	6
匿名組合清算益	△1	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△125	38
営業貸付金の増減額 (△は増加)	65	58
たな卸資産の増減額 (△は増加)	155	△1,577
仕入債務の増減額 (△は減少)	903	6,380
前受金の増減額 (△は減少)	1,534	1,469
その他	△648	△286
小計	9,190	12,575
利息及び配当金の受取額	27	9
利息の支払額	△1,155	△967
法人税等の支払額	△163	△152
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,897	11,464
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△20	△14
定期預金の払戻による収入	16	10
短期貸付金の増減額 (△は増加)	14	△28
長期貸付けによる支出	△1	△1
長期貸付金の回収による収入	0	1
有形固定資産の取得による支出	△883	△612
無形固定資産の取得による支出	△138	△31
投資有価証券の取得による支出	△27	△12
投資有価証券の売却による収入	4	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	—	※3 △100
その他	3	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,032	△792

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△3,811	1,378
長期借入れによる収入	11,020	12,803
長期借入金の返済による支出	△12,875	△16,129
セール・アンド・リースバックによる収入	—	219
リース債務の返済による支出	△21	△41
株式の発行による収入	4,627	—
自己株式の取得による支出	—	△595
配当金の支払額	△129	△320
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,191	△2,685
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	5,673	7,986
現金及び現金同等物の期首残高	3,717	9,391
現金及び現金同等物の期末残高	※1 9,391	※1 17,377

【連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項】

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 3社

連結子会社名

株式会社レーベンコミュニティ

株式会社タフコ

丸の内債権回収株式会社

なお、前連結会計年度において連結子会社でありました株式会社タカラライブネット(現社名 株式会社ライブネットホーム)については、第2四半期連結会計期間において、全株式を売却したことにより、連結の範囲から除外しております。

(2) 主要な非連結子会社の名称等

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の関連会社数 1社

会社名

株式会社アズパートナーズ

(2) 持分法を適用していない非連結子会社

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

すべての連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4. 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

① 有価証券

a. 満期保有目的の債券

償却原価法(定額法)

b. その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

② たな卸資産

個別法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

① 有形固定資産（リース資産を除く）

a. 建物

本社及び営業所等建物については、定率法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額は法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(建物附属設備は除く)については定額法によっております。

賃貸用建物については、収益との合理的な対応を図るため、経済的使用可能期間を見積もり、個別耐用年数による定額法を採用しております。

賃貸用建物の個別耐用年数は、以下のとおりであります。

	個別耐用年数(年)
鉄筋コンクリート造り建物	40
鉄骨造り建物	30
木造建物	15
建物附属設備	15

b. 上記以外の有形固定資産

定率法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額は法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

② 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

③ リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

④ 長期前払費用

定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

① 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

② 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額の当連結会計年度負担額を計上しております。

③ 完成工事補償引当金

自社施工建築物の引渡後の瑕疵による損失及び補償サービス費用に備えるため、過去の自社施工建築物に係る補修費等の実績を基準として計上しております。

(追加情報)

前連結会計年度に引渡しを開始した自社施工建築物の引渡後の瑕疵による損失及び補償サービス費用の実績を集計できるようになったため、当該実績に基づき当連結会計年度より完成工事補償引当金を設定しております。これにより、売上原価が59百万円増加し、売上総利益、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益が59百万円減少しております。

④ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務に基づき計上しております。

⑤ 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程（内規）に基づき当連結会計年度末における要支給額を計上しております。

- (4) のれんの償却方法及び償却期間
のれんの償却については、10年間の均等償却を行っております。
ただし、金額の僅少なものについては発生年度に一括で償却しております。
- (5) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。
- (6) その他連結財務諸表作成のための重要な事項
消費税等の会計処理
消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。また、資産に係る控除対象外消費税等については、発生連結会計年度の期間費用としております。
ただし、免税事業者に該当する連結子会社については税込処理によっております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)																																																																						
<p>※1 関連会社に対するものは次のとおりであります。 投資その他の資産 その他(関連会社株式) 27百万円</p> <p>※2 担保に供している資産及びこれに対応する債務は以下のとおりであります。</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">販売用不動産</td> <td style="text-align: right;">3,889百万円</td> </tr> <tr> <td>仕掛販売用不動産</td> <td style="text-align: right;">22,707</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">4,304</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">12,267</td> </tr> <tr> <td>無形固定資産(借地権)</td> <td style="text-align: right;">224</td> </tr> <tr> <td>関係会社株式</td> <td style="text-align: right;">30</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">43,423</td> </tr> </table> <p>なお、関係会社株式30百万円は連結財務諸表上、相殺消去しております。</p> <p>(2) 上記に対する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">3,276百万円</td> </tr> <tr> <td>1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">16,835</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">13,119</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">33,232</td> </tr> </table> <p>※3 保有不動産の一部を開発及び賃貸から転売へ保有目的を変更したことに伴い、当連結会計年度において建物及び構築物911百万円、土地1,987百万円を販売用不動産及び仕掛販売用不動産に振替えております。</p> <p>4 偶発債務(保証債務)</p> <p>連結子会社以外の取引会社の金融機関からの借入金に対する保証債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">顧客住宅ローンに関する抵当 権設定登記完了までの金融機 関等に対する連帯保証債務 株式会社 アルカ</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">49</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">2,714</td> </tr> </table> <p>5 当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため金融機関8社と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">当座貸越極度限度額及び 貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">7,602百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">3,983</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">差引額</td> <td style="text-align: right;">3,619</td> </tr> </table>	販売用不動産	3,889百万円	仕掛販売用不動産	22,707	建物及び構築物	4,304	工具、器具及び備品	0	土地	12,267	無形固定資産(借地権)	224	関係会社株式	30	計	43,423	短期借入金	3,276百万円	1年内返済予定の長期借入金	16,835	長期借入金	13,119	計	33,232	顧客住宅ローンに関する抵当 権設定登記完了までの金融機 関等に対する連帯保証債務 株式会社 アルカ	49	計	2,714	当座貸越極度限度額及び 貸出コミットメントの総額	7,602百万円	借入実行残高	3,983	差引額	3,619	<p>※1 関連会社に対するものは次のとおりであります。 投資その他の資産 その他(関連会社株式) 45百万円</p> <p>※2 担保に供している資産及びこれに対応する債務は以下のとおりであります。</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">販売用不動産</td> <td style="text-align: right;">6,091百万円</td> </tr> <tr> <td>仕掛販売用不動産</td> <td style="text-align: right;">21,841</td> </tr> <tr> <td>建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">4,090</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td style="text-align: right;">11,247</td> </tr> <tr> <td>無形固定資産(借地権)</td> <td style="text-align: right;">224</td> </tr> <tr> <td>関係会社株式</td> <td style="text-align: right;">30</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">43,525</td> </tr> </table> <p>なお、関係会社株式30百万円は連結財務諸表上、相殺消去しております。</p> <p>(2) 上記に対する債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">5,489百万円</td> </tr> <tr> <td>1年内返済予定の長期借入金</td> <td style="text-align: right;">15,772</td> </tr> <tr> <td>長期借入金</td> <td style="text-align: right;">10,217</td> </tr> <tr> <td>支払手形及び買掛金</td> <td style="text-align: right;">1,533</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">33,011</td> </tr> </table> <p>※3 保有不動産の一部を開発及び賃貸から転売へ保有目的を変更したことに伴い、当連結会計年度において建物及び構築物19百万円、土地22百万円を販売用不動産に振替えております。</p> <p>また、保有不動産の一部を転売から自社利用へ保有目的を変更したことに伴い、当連結会計年度において販売用不動産31百万円を建物18百万円、土地12百万円に振替えております。</p> <p>4 偶発債務(保証債務)</p> <p>連結子会社以外の取引会社の金融機関からの借入金に対する保証債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">顧客住宅ローンに関する抵当 権設定登記完了までの金融機 関等に対する連帯保証債務 株式会社 アルカ</td> <td style="text-align: right; vertical-align: bottom;">48</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">5,895</td> </tr> </table> <p>5 当社グループは、運転資金の効率的な調達を行うため金融機関3社と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">当座貸越極度限度額及び 貸出コミットメントの総額</td> <td style="text-align: right;">2,978百万円</td> </tr> <tr> <td>借入実行残高</td> <td style="text-align: right;">978</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">差引額</td> <td style="text-align: right;">2,000</td> </tr> </table>	販売用不動産	6,091百万円	仕掛販売用不動産	21,841	建物及び構築物	4,090	工具、器具及び備品	0	土地	11,247	無形固定資産(借地権)	224	関係会社株式	30	計	43,525	短期借入金	5,489百万円	1年内返済予定の長期借入金	15,772	長期借入金	10,217	支払手形及び買掛金	1,533	計	33,011	顧客住宅ローンに関する抵当 権設定登記完了までの金融機 関等に対する連帯保証債務 株式会社 アルカ	48	計	5,895	当座貸越極度限度額及び 貸出コミットメントの総額	2,978百万円	借入実行残高	978	差引額	2,000
販売用不動産	3,889百万円																																																																						
仕掛販売用不動産	22,707																																																																						
建物及び構築物	4,304																																																																						
工具、器具及び備品	0																																																																						
土地	12,267																																																																						
無形固定資産(借地権)	224																																																																						
関係会社株式	30																																																																						
計	43,423																																																																						
短期借入金	3,276百万円																																																																						
1年内返済予定の長期借入金	16,835																																																																						
長期借入金	13,119																																																																						
計	33,232																																																																						
顧客住宅ローンに関する抵当 権設定登記完了までの金融機 関等に対する連帯保証債務 株式会社 アルカ	49																																																																						
計	2,714																																																																						
当座貸越極度限度額及び 貸出コミットメントの総額	7,602百万円																																																																						
借入実行残高	3,983																																																																						
差引額	3,619																																																																						
販売用不動産	6,091百万円																																																																						
仕掛販売用不動産	21,841																																																																						
建物及び構築物	4,090																																																																						
工具、器具及び備品	0																																																																						
土地	11,247																																																																						
無形固定資産(借地権)	224																																																																						
関係会社株式	30																																																																						
計	43,525																																																																						
短期借入金	5,489百万円																																																																						
1年内返済予定の長期借入金	15,772																																																																						
長期借入金	10,217																																																																						
支払手形及び買掛金	1,533																																																																						
計	33,011																																																																						
顧客住宅ローンに関する抵当 権設定登記完了までの金融機 関等に対する連帯保証債務 株式会社 アルカ	48																																																																						
計	5,895																																																																						
当座貸越極度限度額及び 貸出コミットメントの総額	2,978百万円																																																																						
借入実行残高	978																																																																						
差引額	2,000																																																																						

(連結損益計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)																																										
<p>※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う、簿価切下げ後(洗替)の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <p style="text-align: right;">△4,890百万円</p> <p>※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">広告宣伝費</td> <td style="text-align: right;">2,349百万円</td> </tr> <tr> <td>販売促進費</td> <td style="text-align: right;">1,152</td> </tr> <tr> <td>給料手当</td> <td style="text-align: right;">1,215</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">200</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">44</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">39</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">24</td> </tr> </table> <p>販売費に属する費用のおおよその割合51%、一般管理費に属する費用のおおよその割合49%であります。</p> <p>※3 固定資産除却損の内訳は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">2</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> </table>	広告宣伝費	2,349百万円	販売促進費	1,152	給料手当	1,215	賞与引当金繰入額	200	退職給付費用	44	役員退職慰労引当金繰入額	39	貸倒引当金繰入額	24	建物及び構築物	0百万円	工具、器具及び備品	2	計	3	<p>※1 期末たな卸高は収益性の低下に伴う、簿価切下げ後(洗替)の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。</p> <p style="text-align: right;">△1,499百万円</p> <p>※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">広告宣伝費</td> <td style="text-align: right;">2,645百万円</td> </tr> <tr> <td>販売促進費</td> <td style="text-align: right;">1,448</td> </tr> <tr> <td>給料手当</td> <td style="text-align: right;">1,198</td> </tr> <tr> <td>賞与引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">241</td> </tr> <tr> <td>退職給付費用</td> <td style="text-align: right;">42</td> </tr> <tr> <td>役員退職慰労引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> <tr> <td>貸倒引当金繰入額</td> <td style="text-align: right;">22</td> </tr> </table> <p>販売費に属する費用のおおよその割合55%、一般管理費に属する費用のおおよその割合45%であります。</p> <p>※3 固定資産除却損の内訳は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">建物及び構築物</td> <td style="text-align: right;">5百万円</td> </tr> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>ソフトウェア</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: right;">計</td> <td style="text-align: right;">6</td> </tr> </table>	広告宣伝費	2,645百万円	販売促進費	1,448	給料手当	1,198	賞与引当金繰入額	241	退職給付費用	42	役員退職慰労引当金繰入額	3	貸倒引当金繰入額	22	建物及び構築物	5百万円	工具、器具及び備品	0	ソフトウェア	0	計	6
広告宣伝費	2,349百万円																																										
販売促進費	1,152																																										
給料手当	1,215																																										
賞与引当金繰入額	200																																										
退職給付費用	44																																										
役員退職慰労引当金繰入額	39																																										
貸倒引当金繰入額	24																																										
建物及び構築物	0百万円																																										
工具、器具及び備品	2																																										
計	3																																										
広告宣伝費	2,645百万円																																										
販売促進費	1,448																																										
給料手当	1,198																																										
賞与引当金繰入額	241																																										
退職給付費用	42																																										
役員退職慰労引当金繰入額	3																																										
貸倒引当金繰入額	22																																										
建物及び構築物	5百万円																																										
工具、器具及び備品	0																																										
ソフトウェア	0																																										
計	6																																										

前連結会計年度
(自 平成22年4月1日
至 平成23年3月31日)

当連結会計年度
(自 平成23年4月1日
至 平成24年3月31日)

※4 減損損失

当社グループは、当連結会計年度において、賃貸不動産の時価下落等により、以下の資産又は資産グループについて減損損失（251百万円）を計上しております。

用途	種類	場所	金額 (百万円)
賃貸 不 動 産	土地・建物	東京都練馬区	78
	土地	東京都千代田区	173
合計			251

また、科目別の内訳は、建物28百万円、土地223百万円であります。

当社グループは、賃貸不動産及び遊休資産については個別の物件単位にグルーピングを行っております。

回収可能額は正味売却価額および使用価値により測定しており、正味売却価額は不動産鑑定士による鑑定評価額等を基準に評価し、使用価値は将来キャッシュ・フローを6%で割り引いて算定しております。

5

※4 減損損失

当社グループは、当連結会計年度において、賃貸不動産の時価下落等により、以下の資産又は資産グループについて減損損失（186百万円）を計上しております。

用途	種類	場所	金額 (百万円)
遊 休 資 産	土地	埼玉県さいたま市西区	1
	土地	埼玉県さいたま市緑区	4
	土地	埼玉県入間郡三芳町	6
	土地	茨城県古河市	1
	土地	神奈川県足柄下郡	7
	土地	栃木県小山市	7
賃 貸 不 動 産	土地	千葉県松戸市	0
	土地	東京都千代田区	156
合計			186

また、科目別の内訳は、土地186百万円であります。

当社グループは、賃貸不動産及び遊休資産については個別の物件単位にグルーピングを行っております。

回収可能額は正味売却価額および使用価値により測定しており、正味売却価額は不動産鑑定士による鑑定評価額等を基準に評価し、使用価値は将来キャッシュ・フローを6%で割り引いて算定しております。

※5 訴訟関連損失は、訴訟和解金110百万円及び弁護士報酬7百万円であります。

(連結包括利益計算書関係)

当連結会計年度(自平成23年4月1日至平成24年3月31日)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

その他有価証券評価差額金

当期発生額	3百万円
組替調整額	7
税効果調整前	11
税効果額	—
その他有価証券評価差額金	11
その他の包括利益合計	11

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自平成22年4月1日至平成23年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度 末株式数(株)
発行済株式				
普通株式(注)	17,540,333	15,845,737	—	33,386,070
合計	17,540,333	15,845,737	—	33,386,070
自己株式				
普通株式	982,771	—	—	982,771
合計	982,771	—	—	982,771

(注) 普通株式の発行済株式総数の増加15,845,737株は、新株予約権の権利行使による新株の発行によるものであります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月22日 定時株主総会	普通株式	33	2	平成22年3月31日	平成22年6月23日
平成22年10月25日 取締役会	普通株式	97	3	平成22年9月30日	平成22年12月7日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月21日 定時株主総会	普通株式	194	利益剰余金	6	平成23年3月31日	平成23年6月22日

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度 末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	33,386,070	—	—	33,386,070
合計	33,386,070	—	—	33,386,070
自己株式				
普通株式(注)	982,771	1,469,100	—	2,451,871
合計	982,771	1,469,100	—	2,451,871

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加1,469,100株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月21日 定時株主総会	普通株式	194	6	平成23年3月31日	平成23年6月22日
平成23年10月24日 取締役会	普通株式	126	4	平成23年9月30日	平成23年12月6日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	278	利益剰余金	9	平成24年3月31日	平成24年6月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年3月31日現在) 現金及び預金勘定 9,414百万円 預入期間が3ヶ月を超える 定期預金 $\Delta 23$ <hr/> 現金及び現金同等物 9,391	※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成24年3月31日現在) 現金及び預金勘定 17,394百万円 預入期間が3ヶ月を超える 定期預金 $\Delta 16$ <hr/> 現金及び現金同等物 17,377
2 重要な非資金取引の内容 保有不動産の保有目的の変更により固定資産から販売用不動産及び仕掛販売用不動産に振替えた金額 2,899百万円	2 重要な非資金取引の内容 保有不動産の保有目的の変更により固定資産から販売用不動産に振替えた金額 42百万円 保有不動産の保有目的の変更により販売用不動産から固定資産に振替えた金額 31百万円
3 _____	※3 株式の売却により連結子会社でなくなった会社の資産及び負債の主な内訳 株式の売却により株式会社タカラライブネット(現社名株式会社ライブネットホーム)が連結子会社でなくなったことに伴う売却時の資産及び負債の内訳並びに株式会社タカラライブネット株式の売却価格と売却による収入は次の通りであります。 流動資産 366百万円 固定資産 19 流動負債 $\Delta 270$ 固定負債 $\Delta 36$ 株式売却損 $\Delta 49$ <hr/> 連結除外子会社株式の売却価額 30 連結除外子会社の現金及び現金同等物 $\Delta 130$ <hr/> 差引：売却による支出 $\Delta 100$

(リース取引関係)

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)																												
<p>1. ファイナンス・リース取引 (借主側)</p> <p style="text-align: center;">—————</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>① リース資産の内容</p> <p>(ア)有形固定資産 統括業務施設における工具、器具及び備品であります。</p> <p>(イ)無形固定資産 ソフトウェアであります。</p> <p>② リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">取得価額 相当額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">減価償却 累計額 相当額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">期末残高 相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: center;">58</td> <td style="text-align: center;">44</td> <td style="text-align: center;">13</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">1</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">63</td> <td style="text-align: center;">48</td> <td style="text-align: center;">15</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p>		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)	工具、器具及び備品	58	44	13	その他	4	3	1	合計	63	48	15	<p>1. ファイナンス・リース取引 (借主側)</p> <p>所有権移転ファイナンス・リース取引</p> <p>① リース資産の内容</p> <p>(ア)有形固定資産 店舗設備 (建物及び構築物) であります。</p> <p>(イ)無形固定資産 ソフトウェアであります。</p> <p>② リース資産の減価償却の方法 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 「4. 会計処理基準に関する事項 (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>① リース資産の内容</p> <p>(ア)有形固定資産 同左</p> <p>(イ)無形固定資産 同左</p> <p>② リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>同左</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">取得価額 相当額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">減価償却 累計額 相当額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">期末残高 相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">7</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">同左</p>		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)	工具、器具及び備品	7	6	0	合計	7	6	0
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)																										
工具、器具及び備品	58	44	13																										
その他	4	3	1																										
合計	63	48	15																										
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)																										
工具、器具及び備品	7	6	0																										
合計	7	6	0																										

前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)																																								
<p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">一年内</td> <td style="text-align: right;">8百万円</td> </tr> <tr> <td>一年超</td> <td style="text-align: right;">7</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">15</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">18百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">18</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。</p> <p>2. オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">一年内</td> <td style="text-align: right;">29百万円</td> </tr> <tr> <td>一年超</td> <td style="text-align: right;">43</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">72</td> </tr> </table>	一年内	8百万円	一年超	7	<hr/>		合計	15	支払リース料	18百万円	減価償却費相当額	18	一年内	29百万円	一年超	43	<hr/>		合計	72	<p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">一年内</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>一年超</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">同左</p> <p>(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">4百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">4</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左</p> <p>(減損損失について) 同左</p> <p>2. オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">一年内</td> <td style="text-align: right;">25百万円</td> </tr> <tr> <td>一年超</td> <td style="text-align: right;">52</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">77</td> </tr> </table>	一年内	0百万円	一年超	-	<hr/>		合計	0	支払リース料	4百万円	減価償却費相当額	4	一年内	25百万円	一年超	52	<hr/>		合計	77
一年内	8百万円																																								
一年超	7																																								
<hr/>																																									
合計	15																																								
支払リース料	18百万円																																								
減価償却費相当額	18																																								
一年内	29百万円																																								
一年超	43																																								
<hr/>																																									
合計	72																																								
一年内	0百万円																																								
一年超	-																																								
<hr/>																																									
合計	0																																								
支払リース料	4百万円																																								
減価償却費相当額	4																																								
一年内	25百万円																																								
一年超	52																																								
<hr/>																																									
合計	77																																								

(金融商品関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、販売計画に照らして、必要な資金を銀行等金融機関から調達しております。

(2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

長期貸付金は、主に顧客に対する貸付であり、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金は、主に営業取引に係る資金調達であり、返済及び償還期間は主として3年以内であります。借入金については、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社グループは、営業債権については、各事業部門並びに管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

また、顧客に対して長期貸付金を有しております。回収に問題が生じた場合は、督促状等を発送するとともに回収状況について経理部長に報告されることになっております。

② 市場リスク(金利等の変動リスク)の管理

当社グループは、投資有価証券については、定期的に時価や発行体(取引先企業)の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

借入金については、各金融機関ごとの借入金利の一覧表を作成し、金利状況をモニタリングしております。また、営業債務及び借入金等は、当社財務部にて資金計画表を作成する等の方法により資金管理をしております。

③ 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行出来なくなるリスク)の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき財務部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成23年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。（注）2. 参照）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	9,414	9,414	—
(2) 受取手形及び売掛金	416	416	—
(3) 投資有価証券	86	86	—
(4) 長期貸付金	99		
貸倒引当金 (※)	△18		
	80	80	—
資産計	9,998	9,998	—
(1) 支払手形及び買掛金	3,785	3,785	—
(2) 短期借入金	3,720	3,720	—
(3) リース債務 (流動)	21	21	—
(4) 長期借入金 (1年内 返済予定の長期借入金 を含む)	30,629	30,633	3
(5) リース債務 (固定)	33	32	△1
負債計	38,190	38,192	1

(※) 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらはすべて株式であり、その時価については取引所の価格によっております。

(4) 長期貸付金

長期貸付金は、回収状況に問題のある貸付先に対しては、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における連結貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。また、その他一般の貸付先については、元利金の合計額を、新規に同様の貸付を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しておりますが、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) リース債務（流動）、(5) リース債務（固定）

これらの時価は、元利金の合計額を、新規にリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(4) 長期借入金（1年以内返済予定の長期借入金を含む）

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映することから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 非上場株式（連結貸借対照表計上額51百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	9,412	—	—	—
受取手形及び売掛金	341	75	—	—
長期貸付金（注）	—	17	20	44
合計	9,753	92	20	44

（注）長期貸付金のうち、破産更生債権等、償還予定額が見込めない15百万円は含めておりません。

4. 長期借入金及びリース債務の連結決算後の返済予定額
連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、販売計画に照らして、必要な資金を銀行等金融機関から調達しております。

(2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。

長期貸付金は、主に顧客に対する貸付であり、顧客の信用リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。

借入金は、主に営業取引に係る資金調達であり、返済及び償還期間は主として3年以内であります。借入金については、金利の変動リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

① 信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社グループは、営業債権については、各事業部門並びに管理部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

また、顧客に対して長期貸付金を有しております。回収に問題が生じた場合は、督促状等を発送するとともに回収状況について経理部長に報告されることになっております。

② 市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

当社グループは、投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

借入金については、各金融機関ごとの借入金利の一覧表を作成し、金利状況をモニタリングしております。また、営業債務及び借入金等は、当社財務部にて資金計画表を作成する等の方法により資金管理をしております。

③ 資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行出来なくなるリスク）の管理

当社グループは、各部署からの報告に基づき財務部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

平成24年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません。（注）2. 参照）

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 現金及び預金	17,394	17,394	—
(2) 受取手形及び売掛金	377	377	—
(3) 投資有価証券	89	89	—
(4) 長期貸付金	89		
貸倒引当金 (※)	△20		
	69	69	—
資産計	17,931	17,931	—
(1) 支払手形及び買掛金	10,165	10,165	—
(2) 短期借入金	5,494	5,494	—
(3) リース債務 (流動)	62	62	—
(4) 長期借入金 (1年内 返済予定の長期借入金 を含む)	26,662	26,663	0
(5) リース債務 (固定)	172	161	△11
負債計	42,555	42,545	△10

(※) 長期貸付金に個別に計上している貸倒引当金を控除しております。

(注) 1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらはすべて株式であり、その時価については取引所の価格によっております。

(4) 長期貸付金

長期貸付金は、回収状況に問題のある貸付先に対しては、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額に基づいて貸倒見積高を算定しているため、時価は決算日における連結貸借対照表価額から現在の貸倒見積高を控除した金額に近似しており、当該価額をもって時価としております。また、その他一般の貸付先については、元利金の合計額を、新規に同様の貸付を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しておりますが、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) リース債務（流動）、(5) リース債務（固定）

これらの時価は、元利金の合計額を、新規にリース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

(4) 長期借入金（1年以内返済予定の長期借入金を含む）

長期借入金のうち、変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映することから、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため、当該帳簿価額によっております。固定金利によるものは、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 非上場株式（連結貸借対照表計上額60百万円）は、市場価格がなく、時価を把握することが困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	17,393	—	—	—
受取手形及び売掛金	362	15	—	—
長期貸付金（注）	—	14	18	34
合計	17,755	29	18	34

（注）長期貸付金のうち、破産更生債権等、償還予定額が見込めない22百万円は含めておりません。

4. 長期借入金及びリース債務の連結決算後の返済予定額
連結附属明細表「借入金等明細表」をご参照下さい。

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成23年3月31日)

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	(1) 株式	2	2	0
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	2	2	0
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないも の	(1) 株式	83	102	△19
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	83	102	△19
合計		86	104	△18

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額51百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

種類	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	4	—	2

当連結会計年度(平成24年3月31日)

1. その他有価証券

	種類	連結貸借対照表 計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えるもの	(1) 株式	—	—	—
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	—	—	—
連結貸借対照表 計上額が取得原 価を超えないも の	(1) 株式	89	104	△14
	(2) 債券	—	—	—
	(3) その他	—	—	—
	小計	89	104	△14
合計		89	104	△14

(注) 1. 非上場株式(連結貸借対照表計上額60百万円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 当連結会計年度において、その他有価証券で時価のある株式について7百万円減損処理を行っております。
なお、当該株式の減損にあたっては、連結会計年度末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

2. 当連結会計年度中に売却したその他有価証券(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

(デリバティブ取引関係)
該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、確定給付型の制度として退職一時金制度を、また、確定拠出型の制度として中小企業退職金共済制度を併用しております。

2. 退職給付債務に関する事項

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
退職給付債務 (百万円)	149	171
退職給付引当金 (百万円)	149	171

3. 退職給付費用に関する事項

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
退職給付費用 (百万円)	51	49
勤務費用 (百万円)	51	49

(注) 当社グループは小規模企業等に該当し簡便法を採用しているため、退職給付費用全額を勤務費用としております。

4. 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
当社グループは小規模企業等に該当し簡便法を採用しているため、該当事項はありません。	同左

(税効果会計関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
繰延税金資産 (百万円)	繰延税金資産 (百万円)
賞与引当金損金算入限度超過額	賞与引当金損金算入限度超過額
72	75
貸倒引当金損金算入限度超過額	貸倒引当金損金算入限度超過額
129	115
連結上の未実現利益の消去に係る税効果	連結上の未実現利益の消去に係る税効果
60	△0
販売用不動産評価損否認	販売用不動産評価損否認
877	261
会員権評価損否認	会員権評価損否認
64	42
退職給付引当金損金算入限度超過額	退職給付引当金損金算入限度超過額
61	62
役員退職慰労引当金損金算入限度超過額	役員退職慰労引当金損金算入限度超過額
33	27
減価償却損金算入限度超過額	減価償却損金算入限度超過額
128	108
電話加入権評価損否認	電話加入権評価損否認
5	4
減損損失否認	減損損失否認
710	694
繰延消費税等	繰延消費税等
20	12
未払事業税等	未払事業税等
15	18
仕掛不動産仕損否認	仕掛不動産仕損否認
180	15
投資有価証券強制評価減否認	投資有価証券強制評価減否認
53	50
資産除去債務否認	資産除去債務否認
5	6
税務繰延資産	税務繰延資産
82	93
繰越欠損金	訴訟費用否認
1,112	44
繰延税金資産小計	完成工事補償引当金損金算入限度超過額
3,614	22
評価性引当額	繰越欠損金
△2,695	286
繰延税金資産合計	繰延税金資産小計
919	1,943
繰延税金負債	評価性引当額
—	△1,483
繰延税金負債合計	繰延税金資産合計
—	460
繰延税金資産の純額	繰延税金負債
919	—
	繰延税金負債合計
	—
	繰延税金資産の純額
	460
(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。	(注) 繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。
(百万円)	(百万円)
流動資産－繰延税金資産	流動資産－繰延税金資産
885	290
固定資産－繰延税金資産	固定資産－繰延税金資産
34	169

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当連結会計年度 (平成24年3月31日)																																						
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="text-align: right;">(%)</td> </tr> <tr> <td>法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.7</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価性引当金の増減</td> <td style="text-align: right;">△37.2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.5</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">4.0</td> </tr> </table>		(%)	法定実効税率	40.7	(調整)		評価性引当金の増減	△37.2	その他	0.5	税効果会計適用後の法人税等の負担率	4.0	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;"></td> <td style="text-align: right;">(%)</td> </tr> <tr> <td>法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.7</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">0.4</td> </tr> <tr> <td>受取配当金等永久に益金に参入されない項目</td> <td style="text-align: right;">△0.8</td> </tr> <tr> <td>住民税均等割</td> <td style="text-align: right;">0.1</td> </tr> <tr> <td>評価性引当金の増減</td> <td style="text-align: right;">△21.3</td> </tr> <tr> <td>税率変更による期末繰延税金資産の減額修正</td> <td style="text-align: right;">0.8</td> </tr> <tr> <td>子会社税率差異</td> <td style="text-align: right;">0.1</td> </tr> <tr> <td>持分法投資利益</td> <td style="text-align: right;">△0.2</td> </tr> <tr> <td>連結子会社売却による影響額</td> <td style="text-align: right;">1.7</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.1</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">21.6</td> </tr> </table> <p>3. 法人税率の変更等による繰延税金資産および繰延税金負債の金額の修正</p> <p>「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)および「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する連結会計年度から法人税率の引下げおよび復興特別法人税の課税が行われることとなりました。</p> <p>これにともない、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来40.7%となっておりましたが、平成24年4月1日に開始する連結会計年度から平成26年4月1日に開始する連結会計年度までの期間に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.6%に変更されます。</p> <p>この税率変更により、当連結会計年度末の繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は36百万円減少し、法人税等調整額は36百万円増加しております。</p>		(%)	法定実効税率	40.7	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	受取配当金等永久に益金に参入されない項目	△0.8	住民税均等割	0.1	評価性引当金の増減	△21.3	税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.8	子会社税率差異	0.1	持分法投資利益	△0.2	連結子会社売却による影響額	1.7	その他	0.1	税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.6
	(%)																																						
法定実効税率	40.7																																						
(調整)																																							
評価性引当金の増減	△37.2																																						
その他	0.5																																						
税効果会計適用後の法人税等の負担率	4.0																																						
	(%)																																						
法定実効税率	40.7																																						
(調整)																																							
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4																																						
受取配当金等永久に益金に参入されない項目	△0.8																																						
住民税均等割	0.1																																						
評価性引当金の増減	△21.3																																						
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.8																																						
子会社税率差異	0.1																																						
持分法投資利益	△0.2																																						
連結子会社売却による影響額	1.7																																						
その他	0.1																																						
税効果会計適用後の法人税等の負担率	21.6																																						
3																																							

(資産除去債務関係)

当社グループは、貸事務所用土地の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しておりますが、当該債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

なお、本社事務所等の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務については、負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関連する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

(賃貸等不動産関係)

当社及び一部の連結子会社では、東京都その他の地域において、賃貸用のオフィスビル（土地を含む。）及び賃貸用のマンション等を有しております。前連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は527百万円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）、減損損失は251百万円（特別損失に計上）であります。当連結会計年度における当該賃貸等不動産に関する賃貸損益は594百万円（賃貸収益は売上高に、主な賃貸費用は売上原価に計上）、減損損失は186百万円（特別損失に計上）であります。

また、当該賃貸等不動産の連結貸借対照表計上額、連結会計年度増減額及び時価は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 平成22年 4月 1日 至 平成23年 3月 31日)	当連結会計年度 (自 平成23年 4月 1日 至 平成24年 3月 31日)
連結貸借対照表計上額		
期首残高	20,439	17,873
期中増減額	△2,566	△63
期末残高	17,873	17,809
期末時価	19,428	19,660

(注) 1. 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額であります。

2. 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な増加額は不動産取得（858百万円）であり、主な減少額は販売用不動産及び仕掛販売用不動産への振替（2,899百万円）、減価償却費（272百万円）及び減損損失（251百万円）であります。当連結会計年度の主な増加額は不動産取得（399百万円）であり、主な減少額は販売用不動産への振替（33百万円）、減価償却費（209百万円）及び減損損失（186百万円）であります。

3. 期末の時価は、社外の不動産鑑定士による鑑定評価額等に基づく金額によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、マンション分譲を中心に事業活動をしております。なお、「不動産販売事業」、「不動産賃貸事業」、「不動産管理事業」を報告セグメントとしております。

「不動産販売事業」は、主に新築分譲マンション、戸建分譲、リニューアルマンション等を行っております。

「不動産賃貸事業」は、事務所及び居住用マンション等の賃貸事業、「不動産管理事業」は、マンションの管理等を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、棚卸資産の評価基準を除き、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

棚卸資産の評価については、収益性の低下に基づく簿価切下げ後の価額で評価しております。

報告セグメントの利益は、営業利益ベースの数値であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、負債その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	不動産販売 事業	不動産賃貸 事業	不動産管理 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	41,948	1,426	2,138	45,513	1,370	46,884
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	8	13	22	351	373
計	41,948	1,435	2,152	45,536	1,721	47,257
セグメント利益	5,856	486	252	6,595	245	6,840
セグメント資産	31,321	18,161	256	49,739	1,177	50,917
セグメント負債	28,492	12,635	128	41,256	896	42,153
その他の項目						
減価償却費	71	273	3	348	9	357
支払利息	849	309	—	1,159	8	1,167
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	102	858	15	977	1	978

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、分譲マンションの販売に伴うオプション工事業、不動産販売代理受託事業等を含んでおります。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	不動産販売 事業	不動産賃貸 事業	不動産管理 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	50,281	1,419	2,282	53,984	1,206	55,191
セグメント間の内部売上高 又は振替高	64	10	10	85	113	199
計	50,345	1,430	2,292	54,069	1,320	55,390
セグメント利益	4,729	604	212	5,546	221	5,768
セグメント資産	32,985	18,073	241	51,300	820	52,121
セグメント負債	37,354	10,310	192	47,857	657	48,514
その他の項目						
減価償却費	90	218	3	312	10	322
支払利息	648	285	—	933	3	937
有形固定資産及び無形固定 資産の増加額	311	404	3	719	29	749

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産販売代理受託事業、修繕工事業等を含んでおります。

4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

（単位：百万円）

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	45,536	54,069
「その他」の区分の売上高	1,721	1,320
セグメント間取引消去	△373	△199
連結財務諸表の売上高	46,884	55,191

（単位：百万円）

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	6,595	5,546
「その他」の区分の利益	245	221
セグメント間取引消去	△83	162
連結財務諸表の営業利益	6,757	5,930

（単位：百万円）

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	49,739	51,300
「その他」の区分の資産	1,177	820
本社管理部門に対する債務の相殺消去	△296	△55
全社資産（注）	10,433	18,211
連結財務諸表の資産合計	61,054	70,277

(注) 全社資産は、報告セグメントに帰属しない資産であります。主なものは、現金及び預金、管理部門にかかる資産及び繰延税金資産等であります。

(単位：百万円)

負債	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	41,256	47,857
「その他」の区分の負債	896	657
本社管理部門に対する債務の相殺消去	△225	△128
全社負債（注）	764	752
連結財務諸表の負債合計	42,692	49,138

(注) 全社負債は、報告セグメントに帰属しない負債であります。主なものは、借入金等であります。

(単位：百万円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	348	312	9	10	10	△3	368	319
支払利息	1,159	933	8	3	13	41	1,181	979
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	977	719	1	29	4	55	982	805

(注) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、本社建物等の設備投資額及びセグメント間取引の消去額であります。

【関連情報】

I 前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

II 当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

（単位：百万円）

	不動産販売事業	不動産賃貸事業	不動産管理事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	251	—	—	—	251

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	不動産販売事業	不動産賃貸事業	不動産管理事業	その他	全社・消去	合計
減損損失	—	186	—	—	—	186

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）

関連当事者との取引

- (1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引
 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は 職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
役員	村山 義男	—	—	当社代表 取締役社長	(被所有) 直接 25.90%	—	資金の 貸付	315	—	—
							債務被 保証	230	—	—

- (注) 1. 上記の取引金額には消費税等は含まれておりません。
 2. 村山義男氏への貸付利率は1.475%であります。
 3. 当社は、銀行借入に対して代表取締役村山義男氏より債務保証を受けておりますが、保証料の支払いはおこなっておりません。

- (2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は 職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
役員	村山 義男	—	—	当社代表 取締役社長	(被所有) 直接 25.90%	—	経営指 導	11	—	—

- (注) 1. 上記の取引金額には消費税等は含まれておりません。
 2. 取引価格及び支払条件は一般的取引と同様であります。

当連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

関連当事者との取引

- (1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引
 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は 職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
役員	村山 義男	—	—	当社代表 取締役社長	(被所有) 直接 27.16%	—	債務被 保証	199	—	—

- (注) 1. 上記の取引金額には消費税等は含まれておりません。
 2. 当社は、銀行借入に対して代表取締役村山義男氏より債務保証を受けておりますが、保証料の支払いはおこなっておりません。

- (2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引
 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は 職業	議決権等の 所有 (被所有) 割合	関連当事者 との関係	取引の 内容	取引金額 (百万円)	科目	期末 残高 (百万円)
役員	村山 義男	—	—	当社代表 取締役社長	(被所有) 直接 27.16%	—	経営指 導	11	—	—

- (注) 1. 上記の取引金額には消費税等は含まれておりません。
 2. 取引価格及び支払条件は一般的取引と同様であります。

(開示対象特別目的会社関係)

前連結会計年度(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

1. 開示対象特別目的会社の概要及び開示対象特別目的会社を利用した取引の概要

当社は、資金調達先の多様化を図るとともに、プロジェクト管理を明確化するため、特別目的会社(特例有限会社および資産流動化法上の特定目的会社の形態によっております。)2社に対し出資を行っていましたが、当初の目的を達成したため前連結会計年度より清算手続きを進め、当連結会計年度において2社とも清算を結了しております。

なお、いずれの特別目的会社についても、当社及び連結子会社は議決権のある出資等は有しておらず、役員や従業員への派遣もありませんでした。

2. 当連結会計年度における特別目的会社との取引金額等

金額の重要性が乏しいため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	566円66銭	683円33銭
1株当たり当期純利益金額	168円14銭	116円49銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	5,083	3,681
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	5,083	3,681
期中平均株式数 (千株)	30,236	31,607

(重要な後発事象)

(役員退職慰労金制度の廃止及び株式報酬型ストックオプションの導入)

当社は、平成24年6月22日開催の第40期定時株主総会において、役員退職慰労金制度を廃止し、当社取締役を対象に、株式報酬型ストックオプション（新株予約権）制度を導入することを決議いたしました。

なお、ストックオプション制度の詳細については「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況（9）ストックオプション制度の内容」に記載しております。

(自己株式の取得)

当社は、平成24年5月14日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得すること及びその具体的な取得方法について決議いたしました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

株主価値の増大に繋がる資本効率の向上策として実行するものです。

(2) 自己株式取得に関する取締役会の決議内容

① 取得する株式の種類

当社普通株式

② 取得し得る株式の総数

1,650,000株（上限）

（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合5.3%）

③ 取得する期間

平成24年5月15日から平成25年3月31日まで

④ 株式の取得価額の総額

1,000百万円（上限）

⑤ 取得の方法

東京証券取引所における市場買付

⑤【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	3,720	5,494	2.33	—
1年以内に返済予定の長期借入金	16,960	15,887	2.34	—
1年以内に返済予定のリース債務	21	62	3.23	—
長期借入金（1年以内に返済予定のものを除く。）	13,669	10,774	2.19	平成25年4月～ 平成43年3月
リース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）	33	172	3.31	平成25年4月～ 平成28年10月
合計	34,405	32,390	—	—

(注) 1. 平均利率については、期末借入残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているものを除いて算定しております。

3. 長期借入金及びリース債務（1年以内に返済予定のものを除く。）の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	4,599	2,039	790	822
リース債務	53	42	44	31

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

① 当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	4,246	16,237	31,268	55,191
税金等調整前四半期(当期) 純損益金額(百万円)	△572	852	1,924	4,695
四半期(当期)純損益金額 (百万円)	△602	712	1,740	3,681
1株当たり四半期(当期)純 損益金額(円)	△18.59	22.15	54.71	116.49

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純損益金額 (円)	△18.59	41.13	33.08	62.65

② 訴訟

当社は、平成22年6月28日付にて、株式会社整理回収機構より、474百万円の保証債務履行請求訴訟を提起されておりました。

当該訴訟の内容は、昭和53年に締結した「提携長期住宅ローンに関する協定書」に基づき、金銭消費貸借契約15件(昭和55年から平成7年まで)について、保証債務の履行等を求められていたものであります。

当社といたしましては、履行すべき保証債務は存在しないものと認識しており、裁判において正当性を主張して争っておりましたが、東京地方裁判所から本件の早期かつ円満な解決を目的とした和解の勧告がなされました。

これを受け当社は、本件係争が更に長期化をした場合に見込まれる経営資源の損失や、本件の解決金等について総合的に検討した結果、平成24年2月27日開催の取締役会にて当社が株式会社整理回収機構に対し、金110百万円を支払う和解の勧告を受け入れる旨を決議し、平成24年4月4日付で和解が成立しました。

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,579	16,499
売掛金	177	126
未収入金	137	125
販売用不動産	※1, ※2 5,237	※1, ※2 7,380
仕掛販売用不動産	※1, ※2 23,534	※1 22,827
前渡金	568	593
前払費用	884	978
短期貸付金	38	4
繰延税金資産	794	262
その他	217	247
貸倒引当金	△33	△11
流動資産合計	40,136	49,034
固定資産		
有形固定資産		
建物	6,465	6,532
減価償却累計額	△2,026	△2,247
建物（純額）	※1, ※2 4,438	※1, ※2 4,284
構築物	99	85
減価償却累計額	△52	△45
構築物（純額）	※1, ※2 47	※1 39
工具、器具及び備品	141	135
減価償却累計額	△116	△113
工具、器具及び備品（純額）	※1 25	※1 21
土地	※1, ※2 13,096	※1, ※2 13,332
リース資産	3	47
減価償却累計額	△2	△9
リース資産（純額）	1	38
有形固定資産合計	17,608	17,716
無形固定資産		
借地権	※1 224	※1 224
ソフトウェア	141	41
リース資産	41	177
ソフトウェア仮勘定	63	—
無形固定資産合計	470	442
投資その他の資産		
投資有価証券	120	133
関係会社株式	※1 82	※1 52
出資金	1	1

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
会員権	14	9
敷金及び保証金	285	269
長期貸付金	98	89
関係会社長期貸付金	50	86
長期未収入金	225	206
繰延税金資産	—	140
その他	27	15
貸倒引当金	△271	△295
投資その他の資産合計	634	709
固定資産合計	18,713	18,869
資産合計	58,850	67,904
負債の部		
流動負債		
支払手形	2,112	5,968
買掛金	1,613	※1 4,106
短期借入金	※1 3,696	※1 5,489
1年内返済予定の長期借入金	※1 16,856	※1 15,793
リース債務	17	57
未払金	687	684
未払費用	78	82
未払法人税等	29	425
前受金	2,308	3,739
預り金	225	276
前受収益	10	10
賞与引当金	120	145
完成工事補償引当金	—	59
その他	19	—
流動負債合計	27,775	36,840
固定負債		
長期借入金	※1 13,230	※1 10,446
預り敷金及び保証金	582	543
リース債務	27	170
退職給付引当金	103	121
役員退職慰労引当金	52	54
資産除去債務	18	19
その他	5	5
固定負債合計	14,021	11,362
負債合計	41,797	48,203

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,819	4,819
資本剰余金		
資本準備金	4,817	4,817
その他資本剰余金	132	132
資本剰余金合計	4,949	4,949
利益剰余金		
利益準備金	92	92
その他利益剰余金		
別途積立金	2,681	6,681
繰越利益剰余金	5,823	5,055
利益剰余金合計	8,597	11,829
自己株式	△1,295	△1,890
株主資本合計	17,071	19,708
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△18	△7
評価・換算差額等合計	△18	△7
純資産合計	17,053	19,701
負債純資産合計	58,850	67,904

②【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
売上高		
不動産売上高	41,703	50,166
不動産賃貸収入	1,173	1,121
その他の収益	194	213
売上高合計	43,071	51,502
売上原価		
不動産売上原価	※1 29,519	※1 38,406
不動産賃貸原価	692	554
売上原価合計	30,212	38,961
売上総利益	12,859	12,540
販売費及び一般管理費	※2 6,327	※2 7,065
営業利益	6,532	5,474
営業外収益		
受取利息	28	7
受取配当金	9	94
受取手数料	117	81
受取出向料	0	0
雑収入	37	35
営業外収益合計	193	219
営業外費用		
支払利息	1,176	977
株式交付費	126	—
雑損失	91	30
営業外費用合計	1,394	1,007
経常利益	5,331	4,685
特別利益		
貸倒引当金戻入額	40	—
賞与引当金戻入額	0	—
過年度損益修正益	49	—
匿名組合清算益	1	—
特別利益合計	92	—
特別損失		
固定資産除却損	※3 2	※3 6
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	7	—
投資有価証券評価損	8	10
出資金評価損	0	—
投資有価証券売却損	2	—
減損損失	※4 251	※4 186
訴訟関連損失	—	※5 117
その他	0	5
特別損失合計	273	325
税引前当期純利益	5,150	4,360
法人税、住民税及び事業税	5	416
法人税等調整額	141	390
法人税等合計	146	807
当期純利益	5,003	3,552

【売上原価明細書】

1. 不動産売上原価

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
仕入土地代	2、3	6,578	22.3	11,185	29.1
外注建築費		22,125	75.0	26,434	68.8
その他		815	2.7	787	2.1
不動産売上原価		29,519	100.0	38,406	100.0

(注) 1. 原価計算の方法は個別原価計算によっております。

2. 前事業年度の仕入土地代には、たな卸資産評価損△4,890百万円が含まれております。

3. 当事業年度の仕入土地代には、たな卸資産評価損△1,499百万円が含まれております。

2. 不動産賃貸原価

区分	注記 番号	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)		当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
租税公課		127	18.5	101	18.3
減価償却費		273	39.4	214	38.6
維持管理費		291	42.1	239	43.1
不動産賃貸原価		692	100.0	554	100.0

③【株主資本等変動計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	2,442	4,819
当期変動額		
新株の発行	2,376	—
当期変動額合計	2,376	—
当期末残高	4,819	4,819
資本剰余金		
資本準備金		
当期首残高	2,440	4,817
当期変動額		
新株の発行	2,376	—
当期変動額合計	2,376	—
当期末残高	4,817	4,817
その他資本剰余金		
当期首残高	132	132
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	132	132
資本剰余金合計		
当期首残高	2,572	4,949
当期変動額		
新株の発行	2,376	—
当期変動額合計	2,376	—
当期末残高	4,949	4,949
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	92	92
当期変動額		
当期変動額合計	—	—
当期末残高	92	92
その他利益剰余金		
別途積立金		
当期首残高	1,681	2,681
当期変動額		
別途積立金の積立	1,000	4,000
当期変動額合計	1,000	4,000
当期末残高	2,681	6,681

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
繰越利益剰余金		
当期首残高	1,950	5,823
当期変動額		
別途積立金の積立	△1,000	△4,000
剰余金の配当	△130	△320
当期純利益	5,003	3,552
当期変動額合計	3,873	△767
当期末残高	5,823	5,055
利益剰余金合計		
当期首残高	3,724	8,597
当期変動額		
剰余金の配当	△130	△320
当期純利益	5,003	3,552
当期変動額合計	4,873	3,232
当期末残高	8,597	11,829
自己株式		
当期首残高	△1,295	△1,295
当期変動額		
自己株式の取得	—	△595
当期変動額合計	—	△595
当期末残高	△1,295	△1,890
株主資本合計		
当期首残高	7,444	17,071
当期変動額		
新株の発行	4,753	—
剰余金の配当	△130	△320
当期純利益	5,003	3,552
自己株式の取得	—	△595
当期変動額合計	9,626	2,636
当期末残高	17,071	19,708

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	△21	△18
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	11
当期変動額合計	2	11
当期末残高	△18	△7
評価・換算差額等合計		
当期首残高	△21	△18
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	11
当期変動額合計	2	11
当期末残高	△18	△7
純資産合計		
当期首残高	7,423	17,053
当期変動額		
新株の発行	4,753	—
剰余金の配当	△130	△320
当期純利益	5,003	3,552
自己株式の取得	—	△595
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2	11
当期変動額合計	9,629	2,647
当期末残高	17,053	19,701

【重要な会計方針】

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

- (1) 満期保有目的の債券
償却原価法（定額法）
- (2) 子会社株式及び関連会社株式
移動平均法による原価法
- (3) その他有価証券
時価のあるもの
決算日の市場価格等に基づく時価法
（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）
時価のないもの
移動平均法による原価法

2. たな卸資産の評価基準及び評価方法

- 個別法による原価法
（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

3. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

① 建物

本社及び営業所等建物については、定率法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額については、法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物（建物附属設備は除く）については定額法によっております。

賃貸用建物については、収益との合理的な対応を図るため、経済的使用可能期間を見積もり、個別耐用年数による定額法を採用しております。

賃貸用建物の個別耐用年数は以下のとおりであります。

	個別耐用年数（年）
鉄筋コンクリート造り建物	40
鉄骨造り建物	30
木造建物	15
建物附属設備	15

② 上記以外の有形固定資産

定率法を採用しております。

なお、耐用年数及び残存価額は法人税法に規定する方法と同一の基準によっております。

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

自社利用のソフトウェアについては、社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用しております。

(3) リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、将来の支給見込額のうち当期の負担額を計上しております。

(3) 完成工事補償引当金

自社施工建築物の引渡後の瑕疵による損失及び補償サービス費用に備えるため、過去の自社施工建築物に係る補修費等の実績を基準として計上しております。

(追加情報)

前事業年度に引渡しを開始した自社施工建築物の引渡後の瑕疵による損失及び補償サービス費用の実績を集計できるようになったため、当該実績に基づき当事業年度より完成工事補償引当金を設定しております。これにより、売上原価が59百万円増加し、売上総利益、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益が59百万円減少しております。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務に基づき計上しております。

(5) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支出に備えるため、役員退職慰労金規程（内規）に基づき当事業年度末における要支給額を計上しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。また、資産に係る控除対象外消費税等については、発生事業年度の期間費用としております。

【追加情報】

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当事業年度の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

【注記事項】

(貸借対照表関係)

前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)																																																						
<p>※1 担保に供している資産及びこれに対応する債務は以下のとおりであります。</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>販売用不動産</td><td style="text-align: right;">3,889百万円</td></tr> <tr><td>仕掛販売用不動産</td><td style="text-align: right;">22,707</td></tr> <tr><td>建物</td><td style="text-align: right;">4,268</td></tr> <tr><td>構築物</td><td style="text-align: right;">36</td></tr> <tr><td>工具、器具及び備品</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>土地</td><td style="text-align: right;">12,267</td></tr> <tr><td>借地権</td><td style="text-align: right;">224</td></tr> <tr><td>関係会社株式</td><td style="text-align: right;">30</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">43,423</td></tr> </table> <p>(2) 上記に対する担保付債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>短期借入金</td><td style="text-align: right;">3,276百万円</td></tr> <tr><td>1年内返済予定の長期借入金</td><td style="text-align: right;">16,835</td></tr> <tr><td>長期借入金</td><td style="text-align: right;">13,119</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">33,232</td></tr> </table>	販売用不動産	3,889百万円	仕掛販売用不動産	22,707	建物	4,268	構築物	36	工具、器具及び備品	0	土地	12,267	借地権	224	関係会社株式	30	計	43,423	短期借入金	3,276百万円	1年内返済予定の長期借入金	16,835	長期借入金	13,119	計	33,232	<p>※1 担保に供している資産及びこれに対応する債務は以下のとおりであります。</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>販売用不動産</td><td style="text-align: right;">6,091百万円</td></tr> <tr><td>仕掛販売用不動産</td><td style="text-align: right;">21,841</td></tr> <tr><td>建物</td><td style="text-align: right;">4,059</td></tr> <tr><td>構築物</td><td style="text-align: right;">30</td></tr> <tr><td>工具、器具及び備品</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>土地</td><td style="text-align: right;">11,247</td></tr> <tr><td>借地権</td><td style="text-align: right;">224</td></tr> <tr><td>関係会社株式</td><td style="text-align: right;">30</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">43,525</td></tr> </table> <p>(2) 上記に対する担保付債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>短期借入金</td><td style="text-align: right;">5,489百万円</td></tr> <tr><td>1年内返済予定の長期借入金</td><td style="text-align: right;">15,772</td></tr> <tr><td>長期借入金</td><td style="text-align: right;">10,217</td></tr> <tr><td>買掛金</td><td style="text-align: right;">1,533</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">33,011</td></tr> </table>	販売用不動産	6,091百万円	仕掛販売用不動産	21,841	建物	4,059	構築物	30	工具、器具及び備品	0	土地	11,247	借地権	224	関係会社株式	30	計	43,525	短期借入金	5,489百万円	1年内返済予定の長期借入金	15,772	長期借入金	10,217	買掛金	1,533	計	33,011
販売用不動産	3,889百万円																																																						
仕掛販売用不動産	22,707																																																						
建物	4,268																																																						
構築物	36																																																						
工具、器具及び備品	0																																																						
土地	12,267																																																						
借地権	224																																																						
関係会社株式	30																																																						
計	43,423																																																						
短期借入金	3,276百万円																																																						
1年内返済予定の長期借入金	16,835																																																						
長期借入金	13,119																																																						
計	33,232																																																						
販売用不動産	6,091百万円																																																						
仕掛販売用不動産	21,841																																																						
建物	4,059																																																						
構築物	30																																																						
工具、器具及び備品	0																																																						
土地	11,247																																																						
借地権	224																																																						
関係会社株式	30																																																						
計	43,525																																																						
短期借入金	5,489百万円																																																						
1年内返済予定の長期借入金	15,772																																																						
長期借入金	10,217																																																						
買掛金	1,533																																																						
計	33,011																																																						
<p>※2 保有不動産の一部を開発及び賃貸から転売へ保有目的を変更したことに伴い、当事業年度において建物826百万円、構築物15百万円、土地1,938百万円を販売用不動産及び仕掛販売用不動産に振替えております。</p> <p>3 偶発債務</p> <p>次の関係会社等について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。</p> <p>顧客住宅ローンに関する抵当権設定登記完了までの金融機関等に対する連帯保証債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>株式会社 タフコ</td><td style="text-align: right;">515</td></tr> <tr><td>株式会社 アルカ</td><td style="text-align: right;">49</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,230</td></tr> </table> <p>4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため金融機関8社と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>当座貸越極度限度額及び貸出コミットメントの総額</td><td style="text-align: right;">7,602百万円</td></tr> <tr><td>借入実行残高</td><td style="text-align: right;">3,983</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">3,619</td></tr> </table>	株式会社 タフコ	515	株式会社 アルカ	49	計	3,230	当座貸越極度限度額及び貸出コミットメントの総額	7,602百万円	借入実行残高	3,983	差引額	3,619	<p>※2 保有不動産の一部を転売から自社利用へ保有目的を変更したことに伴い、当事業年度において販売用不動産31百万円を建物18百万円、土地12百万円に振替えております。</p> <p>3 偶発債務</p> <p>次の関係会社等について、金融機関からの借入に対し債務保証を行っております。</p> <p>顧客住宅ローンに関する抵当権設定登記完了までの金融機関等に対する連帯保証債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>株式会社 タフコ</td><td style="text-align: right;">421</td></tr> <tr><td>株式会社 アルカ</td><td style="text-align: right;">48</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">計</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">6,317</td></tr> </table> <p>4 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため金融機関3社と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりです。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>当座貸越極度限度額及び貸出コミットメントの総額</td><td style="text-align: right;">2,978百万円</td></tr> <tr><td>借入実行残高</td><td style="text-align: right;">978</td></tr> <tr><td style="border-top: 1px solid black;">差引額</td><td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2,000</td></tr> </table>	株式会社 タフコ	421	株式会社 アルカ	48	計	6,317	当座貸越極度限度額及び貸出コミットメントの総額	2,978百万円	借入実行残高	978	差引額	2,000																														
株式会社 タフコ	515																																																						
株式会社 アルカ	49																																																						
計	3,230																																																						
当座貸越極度限度額及び貸出コミットメントの総額	7,602百万円																																																						
借入実行残高	3,983																																																						
差引額	3,619																																																						
株式会社 タフコ	421																																																						
株式会社 アルカ	48																																																						
計	6,317																																																						
当座貸越極度限度額及び貸出コミットメントの総額	2,978百万円																																																						
借入実行残高	978																																																						
差引額	2,000																																																						

(損益計算書関係)

前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)																																																
<p>※1 期末販売用不動産及び仕掛販売用不動産は収益性の低下に伴う、簿価切下げ後（洗替）の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。 △4,890百万円</p> <p>※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">広告宣伝費</td><td style="text-align: right;">2,341百万円</td></tr> <tr><td>販売手数料</td><td style="text-align: right;">125</td></tr> <tr><td>販売促進費</td><td style="text-align: right;">1,178</td></tr> <tr><td>給料手当</td><td style="text-align: right;">879</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">161</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">26</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">71</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">18</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">9</td></tr> </table> <p>販売費に属する費用のおおよその割合は58%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は42%であります。</p> <p>※3 固定資産除却損の内訳は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">工具、器具及び備品</td><td style="text-align: right;">2百万円</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">計</td><td style="text-align: right;">2</td></tr> </table>	広告宣伝費	2,341百万円	販売手数料	125	販売促進費	1,178	給料手当	879	賞与引当金繰入額	161	退職給付費用	26	減価償却費	71	役員退職慰労引当金繰入額	18	貸倒引当金繰入額	9	工具、器具及び備品	2百万円	計	2	<p>※1 期末販売用不動産及び仕掛販売用不動産は収益性の低下に伴う、簿価切下げ後（洗替）の金額であり、次のたな卸資産評価損が売上原価に含まれております。 △1,499百万円</p> <p>※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">広告宣伝費</td><td style="text-align: right;">2,617百万円</td></tr> <tr><td>販売手数料</td><td style="text-align: right;">211</td></tr> <tr><td>販売促進費</td><td style="text-align: right;">1,484</td></tr> <tr><td>給料手当</td><td style="text-align: right;">950</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">212</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td style="text-align: right;">27</td></tr> <tr><td>減価償却費</td><td style="text-align: right;">90</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">4</td></tr> <tr><td>貸倒引当金繰入額</td><td style="text-align: right;">3</td></tr> </table> <p>販売費に属する費用のおおよその割合は61%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は39%であります。</p> <p>※3 固定資産除却損の内訳は以下のとおりであります。</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">構築物</td><td style="text-align: right;">5百万円</td></tr> <tr><td>工具、器具及び備品</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td>ソフトウェア</td><td style="text-align: right;">0</td></tr> <tr><td style="text-align: center;">計</td><td style="text-align: right;">6</td></tr> </table>	広告宣伝費	2,617百万円	販売手数料	211	販売促進費	1,484	給料手当	950	賞与引当金繰入額	212	退職給付費用	27	減価償却費	90	役員退職慰労引当金繰入額	4	貸倒引当金繰入額	3	構築物	5百万円	工具、器具及び備品	0	ソフトウェア	0	計	6
広告宣伝費	2,341百万円																																																
販売手数料	125																																																
販売促進費	1,178																																																
給料手当	879																																																
賞与引当金繰入額	161																																																
退職給付費用	26																																																
減価償却費	71																																																
役員退職慰労引当金繰入額	18																																																
貸倒引当金繰入額	9																																																
工具、器具及び備品	2百万円																																																
計	2																																																
広告宣伝費	2,617百万円																																																
販売手数料	211																																																
販売促進費	1,484																																																
給料手当	950																																																
賞与引当金繰入額	212																																																
退職給付費用	27																																																
減価償却費	90																																																
役員退職慰労引当金繰入額	4																																																
貸倒引当金繰入額	3																																																
構築物	5百万円																																																
工具、器具及び備品	0																																																
ソフトウェア	0																																																
計	6																																																

前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)				当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)																																																				
<p>※4 減損損失</p> <p>当社は、当事業年度において、賃貸不動産の時価下落等により、以下の資産又は資産グループについて減損損失(251百万円)を計上しております。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>場所</th> <th>金額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">賃貸 不 動 産</td> <td>土地・建物・ 構築物</td> <td>東京都練馬区</td> <td>78</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>東京都千代田区</td> <td>173</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>251</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、科目別の内訳は、建物27百万円、構築物0百万円、土地223百万円であります。</p> <p>当社は、賃貸不動産及び遊休資産については個別の物件単位にグルーピングを行っております。</p> <p>回収可能額は正味売却価額および使用価値により測定しており、正味売却価額は不動産鑑定士による鑑定評価額等を基準に評価し、使用価値は将来キャッシュ・フローを6%で割り引いて算定しております。</p> <p>5</p>				用途	種類	場所	金額 (百万円)	賃貸 不 動 産	土地・建物・ 構築物	東京都練馬区	78	土地	東京都千代田区	173	合計			251	<p>※4 減損損失</p> <p>当社は、当事業年度において、賃貸不動産の時価下落等により、以下の資産又は資産グループについて減損損失(186百万円)を計上しております。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>場所</th> <th>金額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">遊 休 資 産</td> <td>土地</td> <td>埼玉県さいたま市西区</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>埼玉県さいたま市緑区</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>埼玉県入間郡三芳町</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>茨城県古河市</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>神奈川県足柄下郡</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>栃木県小山市</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">賃 貸 不 動 産</td> <td>土地</td> <td>千葉県松戸市</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>土地</td> <td>東京都千代田区</td> <td>156</td> </tr> <tr> <td colspan="3">合計</td> <td>186</td> </tr> </tbody> </table> <p>また、科目別の内訳は、土地186百万円であります。</p> <p>当社は、賃貸不動産及び遊休資産については個別の物件単位にグルーピングを行っております。</p> <p>回収可能額は正味売却価額および使用価値により測定しており、正味売却価額は不動産鑑定士による鑑定評価額等を基準に評価し、使用価値は将来キャッシュ・フローを6%で割り引いて算定しております。</p> <p>※5 訴訟関連損失は、訴訟和解金110百万円及び弁護士報酬7百万円であります。</p>				用途	種類	場所	金額 (百万円)	遊 休 資 産	土地	埼玉県さいたま市西区	1	土地	埼玉県さいたま市緑区	4	土地	埼玉県入間郡三芳町	6	土地	茨城県古河市	1	土地	神奈川県足柄下郡	7	土地	栃木県小山市	7	賃 貸 不 動 産	土地	千葉県松戸市	0	土地	東京都千代田区	156	合計			186
用途	種類	場所	金額 (百万円)																																																					
賃貸 不 動 産	土地・建物・ 構築物	東京都練馬区	78																																																					
	土地	東京都千代田区	173																																																					
合計			251																																																					
用途	種類	場所	金額 (百万円)																																																					
遊 休 資 産	土地	埼玉県さいたま市西区	1																																																					
	土地	埼玉県さいたま市緑区	4																																																					
	土地	埼玉県入間郡三芳町	6																																																					
	土地	茨城県古河市	1																																																					
	土地	神奈川県足柄下郡	7																																																					
	土地	栃木県小山市	7																																																					
賃 貸 不 動 産	土地	千葉県松戸市	0																																																					
	土地	東京都千代田区	156																																																					
合計			186																																																					

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度増加 株式数 (株)	当事業年度減少 株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式	982,771	—	—	982,771
合計	982,771	—	—	982,771

当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数 (株)	当事業年度増加 株式数 (株)	当事業年度減少 株式数 (株)	当事業年度末株式数 (株)
普通株式 (注)	982,771	1,469,100	—	2,451,871
合計	982,771	1,469,100	—	2,451,871

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加1,469,100株は、取締役会決議による自己株式の取得による増加であります。

(リース取引関係)

前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)																												
<p>1. ファイナンス・リース取引 (借主側)</p> <p style="text-align: center;">—————</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>① リース資産の内容</p> <p>(ア)有形固定資産 統括業務施設における工具、器具及び備品であります。</p> <p>(イ)無形固定資産 ソフトウェアであります。</p> <p>② リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が、平成20年3月31日以前のリース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">取得価額 相当額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">減価償却 累計額 相当額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">期末残高 相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: center;">38</td> <td style="text-align: center;">33</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">38</td> <td style="text-align: center;">34</td> <td style="text-align: center;">4</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注) 取得価額相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いいため支払利子込み法により算定しております。</p>		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)	工具、器具及び備品	38	33	4	その他	0	0	0	合計	38	34	4	<p>1. ファイナンス・リース取引 (借主側)</p> <p>所有権移転ファイナンス・リース取引</p> <p>① リース資産の内容</p> <p>(ア)有形固定資産 店舗設備 (建物) であります。</p> <p>(イ)無形固定資産 ソフトウェアであります。</p> <p>② リース資産の減価償却の方法 重要な会計方針「3. 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。</p> <p>所有権移転外ファイナンス・リース取引</p> <p>① リース資産の内容</p> <p>(ア)有形固定資産 同左</p> <p>(イ)無形固定資産 同左</p> <p>② リース資産の減価償却の方法 同左</p> <p>同左</p> <p>(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額、減損損失累計額相当額及び期末残高相当額</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th style="text-align: center;">取得価額 相当額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">減価償却 累計額 相当額 (百万円)</th> <th style="text-align: center;">期末残高 相当額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>工具、器具及び備品</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">合計</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">3</td> <td style="text-align: center;">0</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">同左</p>		取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)	工具、器具及び備品	3	3	0	合計	3	3	0
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)																										
工具、器具及び備品	38	33	4																										
その他	0	0	0																										
合計	38	34	4																										
	取得価額 相当額 (百万円)	減価償却 累計額 相当額 (百万円)	期末残高 相当額 (百万円)																										
工具、器具及び備品	3	3	0																										
合計	3	3	0																										

前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)																																								
<p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">一年内</td> <td style="text-align: right;">3百万円</td> </tr> <tr> <td>一年超</td> <td style="text-align: right;">1</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">4</td> </tr> </table> <p>(注) 未経過リース料期末残高相当額は、未経過リース料期末残高が有形固定資産の期末残高等に占める割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。</p> <p>(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">12百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">12</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。</p> <p>(減損損失について) リース資産に配分された減損損失はありません。</p> <p>2. オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">一年内</td> <td style="text-align: right;">16百万円</td> </tr> <tr> <td>一年超</td> <td style="text-align: right;">27</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">44</td> </tr> </table>	一年内	3百万円	一年超	1	<hr/>		合計	4	支払リース料	12百万円	減価償却費相当額	12	一年内	16百万円	一年超	27	<hr/>		合計	44	<p>(2) 未経過リース料期末残高相当額等 未経過リース料期末残高相当額</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">一年内</td> <td style="text-align: right;">0百万円</td> </tr> <tr> <td>一年超</td> <td style="text-align: right;">-</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> </table> <p style="text-align: center;">同左</p> <p>(3) 支払リース料、リース資産減損勘定の取崩額、減価償却費相当額及び減損損失</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">支払リース料</td> <td style="text-align: right;">3百万円</td> </tr> <tr> <td>減価償却費相当額</td> <td style="text-align: right;">3</td> </tr> </table> <p>(4) 減価償却費相当額の算定方法 同左</p> <p>(減損損失について) 同左</p> <p>2. オペレーティング・リース取引 オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">一年内</td> <td style="text-align: right;">16百万円</td> </tr> <tr> <td>一年超</td> <td style="text-align: right;">32</td> </tr> <tr> <td colspan="2"><hr/></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td style="text-align: right;">49</td> </tr> </table>	一年内	0百万円	一年超	-	<hr/>		合計	0	支払リース料	3百万円	減価償却費相当額	3	一年内	16百万円	一年超	32	<hr/>		合計	49
一年内	3百万円																																								
一年超	1																																								
<hr/>																																									
合計	4																																								
支払リース料	12百万円																																								
減価償却費相当額	12																																								
一年内	16百万円																																								
一年超	27																																								
<hr/>																																									
合計	44																																								
一年内	0百万円																																								
一年超	-																																								
<hr/>																																									
合計	0																																								
支払リース料	3百万円																																								
減価償却費相当額	3																																								
一年内	16百万円																																								
一年超	32																																								
<hr/>																																									
合計	49																																								

(有価証券関係)

前事業年度 (平成23年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式 (貸借対照表計上額 関連会社株式82百万円) は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

当事業年度 (平成24年3月31日)

子会社株式及び関連会社株式 (貸借対照表計上額 関連会社株式52百万円) は市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)
1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳	1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳
繰延税金資産 (百万円)	繰延税金資産 (百万円)
賞与引当金損金算入限度超過額 48	賞与引当金損金算入限度超過額 55
貸倒引当金損金算入限度超過額 124	貸倒引当金損金算入限度超過額 110
販売用不動産評価損否認 877	販売用不動産評価損否認 261
会員権評価損否認 63	会員権評価損否認 42
退職給付引当金損金算入限度超過額 42	退職給付引当金損金算入限度超過額 44
役員退職慰労引当金損金算入限度超過額 21	役員退職慰労引当金損金算入限度超過額 19
減価償却損金算入限度超過額 128	減価償却損金算入限度超過額 108
電話加入権評価損否認 5	電話加入権評価損否認 4
減損損失否認 710	減損損失否認 694
繰延消費税等 20	繰延消費税等 12
未払事業税等 9	未払事業税等 10
仕掛不動産仕損否認 180	仕掛不動産仕損否認 15
投資有価証券強制評価減否認 53	投資有価証券強制評価減否認 50
資産除去債務否認 3	資産除去債務否認 4
税務繰延資産 82	税務繰延資産 93
繰越欠損金 793	訴訟費用否認 44
繰延税金資産小計 3,166	完成工事補償引当金損金算入限度超過額 22
評価性引当額 △2,372	繰延税金資産小計 1,595
繰延税金資産合計 794	評価性引当額 △1,192
繰延税金負債	繰延税金資産合計 403
繰延税金負債合計 —	繰延税金負債
繰延税金資産の純額 794	繰延税金負債合計 —
	繰延税金資産の純額 403
(注) 繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。	(注) 繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。
(百万円)	(百万円)
流動資産－繰延税金資産 794	流動資産－繰延税金資産 262
	固定資産－繰延税金資産 140

前事業年度 (平成23年3月31日)	当事業年度 (平成24年3月31日)																																
<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">(%)</td> </tr> <tr> <td>法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.7</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>評価性引当金の増減</td> <td style="text-align: right;">△38.2</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.3</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">2.9</td> </tr> </table>		(%)	法定実効税率	40.7	(調整)		評価性引当金の増減	△38.2	その他	0.3	税効果会計適用後の法人税等の負担率	2.9	<p>2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td></td> <td style="text-align: right;">(%)</td> </tr> <tr> <td>法定実効税率</td> <td style="text-align: right;">40.7</td> </tr> <tr> <td>(調整)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>交際費等永久に損金に算入されない項目</td> <td style="text-align: right;">0.4</td> </tr> <tr> <td>受取配当金等永久に益金に参入されない項目</td> <td style="text-align: right;">△0.8</td> </tr> <tr> <td>住民税均等割</td> <td style="text-align: right;">0.1</td> </tr> <tr> <td>評価性引当金の増減</td> <td style="text-align: right;">△23.2</td> </tr> <tr> <td>税率変更による期末繰延税金資産の減額修正</td> <td style="text-align: right;">0.8</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">0.6</td> </tr> <tr> <td style="border-top: 1px solid black;">税効果会計適用後の法人税等の負担率</td> <td style="text-align: right; border-top: 1px solid black;">18.5</td> </tr> </table>		(%)	法定実効税率	40.7	(調整)		交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4	受取配当金等永久に益金に参入されない項目	△0.8	住民税均等割	0.1	評価性引当金の増減	△23.2	税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.8	その他	0.6	税効果会計適用後の法人税等の負担率	18.5
	(%)																																
法定実効税率	40.7																																
(調整)																																	
評価性引当金の増減	△38.2																																
その他	0.3																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	2.9																																
	(%)																																
法定実効税率	40.7																																
(調整)																																	
交際費等永久に損金に算入されない項目	0.4																																
受取配当金等永久に益金に参入されない項目	△0.8																																
住民税均等割	0.1																																
評価性引当金の増減	△23.2																																
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	0.8																																
その他	0.6																																
税効果会計適用後の法人税等の負担率	18.5																																
<p>3. _____</p>	<p>3. 法人税率の変更等による繰延税金資産および繰延税金負債の金額の修正</p> <p>「経済社会の構造の変化に対応した税制の構築を図るための所得税法等の一部を改正する法律」(平成23年法律第114号)および「東日本大震災からの復興のための施策を実施するために必要な財源の確保に関する特別措置法」(平成23年法律第117号)が平成23年12月2日に公布され、平成24年4月1日以後に開始する事業年度から法人税率の引下げおよび復興特別法人税の課税が行われることとなりました。</p> <p>これにともない、繰延税金資産および繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は従来40.7%となっておりましたが、平成24年4月1日に開始する事業年度から平成26年4月1日に開始する事業年度までの期間に解消が見込まれる一時差異については38.0%に、平成27年4月1日に開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異については35.6%に変更されます。</p> <p>この税率変更により、当事業年度末の繰延税金資産の金額(繰延税金負債の金額を控除した金額)は32百万円減少し、法人税等調整額は32百万円増加しております。</p>																																

(資産除去債務関係)

当社は、貸事務所用土地の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しておりますが、当該債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

なお、本社事務所等の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務については、負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関連する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、事業年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

(1株当たり情報)

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり純資産額	526円29銭	636円87銭
1株当たり当期純利益金額	165円48銭	112円41銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)	当事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益 (百万円)	5,003	3,552
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (百万円)	5,003	3,552
期中平均株式数 (千株)	30,236	31,607

(重要な後発事象)

(役員退職慰労金制度の廃止及び株式報酬型ストックオプションの導入)

当社は、平成24年6月22日開催の第40期定時株主総会において、役員退職慰労金制度を廃止し、当社取締役を対象に、株式報酬型ストックオプション（新株予約権）制度を導入することを決議いたしました。

なお、ストックオプション制度の詳細については「第4 提出会社の状況 1 株式等の状況（9）ストックオプション制度の内容」に記載しております。

(自己株式の取得)

当社は、平成24年5月14日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得すること及びその具体的な取得方法について決議いたしました。

(1) 自己株式の取得を行う理由

株主価値の増大に繋がる資本効率の向上策として実行するものです。

(2) 自己株式取得に関する取締役会の決議内容

① 取得する株式の種類

当社普通株式

② 取得し得る株式の総数

1,650,000株（上限）

（発行済株式総数（自己株式を除く）に対する割合5.3%）

③ 取得する期間

平成24年5月15日から平成25年3月31日まで

④ 株式の取得価額の総額

1,000百万円（上限）

⑤ 取得の方法

東京証券取引所における市場買付

④【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	差引当期末 残高 (百万円)
有形固定資産							
建物	6,465	67	—	6,532	2,247	221	4,284
構築物	99	4	18	85	45	6	39
工具、器具及び備品	141	10	17	135	113	13	21
土地	13,096	422	186 (186)	13,332	—	—	13,332
リース資産	3	44	—	47	9	7	38
有形固定資産計	19,806	549	222 (186)	20,133	2,416	248	17,716
無形固定資産							
借地権	—	—	—	224	—	—	224
ソフトウェア	—	—	—	73	32	26	41
リース資産	—	—	—	244	67	29	177
無形固定資産計	—	—	—	542	99	56	442

(注) 1. 「当期減少額」の()書きは内書きで、減損損失の計上額であります。

2. 当期増加の主な内容は収益物件の取得であり、その主要な内訳は以下のとおりであります。

土地 収益物件の取得等 398百万円

3. 無形固定資産の金額が資産の総額の1%以下であるため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (目的使用) (百万円)	当期減少額 (その他) (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金(注) 1	304	307	1	303	307
賞与引当金	120	145	120	—	145
完成工事補償引当金	—	59	—	—	59
役員退職慰労引当金(注) 2	52	4	0	1	54

(注) 1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、戻入によるものであります。

2. 役員退職慰労引当金の「当期減少額(その他)」は、戻入によるものであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

a. 資産の部

イ. 現金及び預金

区分	金額 (百万円)
現金	0
預金の種類	
当座預金	3,429
普通預金	12,841
定期預金	220
積立預金	6
小計	16,498
合計	16,499

ロ. 受取手形

該当事項はありません。

ハ. 売掛金

相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
(株)アズパートナーズ	75
(株)リオ	12
(有)アイデアスペース	7
住友不動産シスコン(株)	7
東京電力(株)	7
その他	17
合計	126

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高 (百万円)	当期発生高 (百万円)	当期回収高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	回収率 (%)	滞留期間 (日)
(A)	(B)	(C)	(D)	$\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	$\frac{(A) + (D)}{2} - \frac{(B)}{366}$
177	305	356	126	73.8	182

(注) 当期発生高には消費税等が含まれております。

ニ. 販売用不動産

区分	面積 (㎡)	金額 (百万円)
販売用マンション	21,207.87	7,380
合計	21,207.87	7,380

ホ. 仕掛販売用不動産

区分	面積 (㎡)	金額 (百万円)	
マンション建設用地等	埼玉県	58,838.95	8,136
	東京都	25,839.78	6,259
	茨城県	52,363.70	3,041
	神奈川県	16,862.98	2,794
	千葉県	16,748.78	934
	その他	12,688.77	1,659
合計	183,342.96	22,827	

b. 負債の部

イ. 支払手形

相手先別内訳

相手先	金額 (百万円)
りんかい日産建設(株)	2,430
(株)ノバック	1,089
共立建設(株)	960
多田建設(株)	765
安藤建設(株)	477
佐田建設(株)	245
合計	5,968

期日別内訳

期日別	金額 (百万円)
平成24年4月満期	1,572
〃 5月 〃	462
〃 6月 〃	—
〃 7月 〃	477
〃 8月 〃	3,456
合計	5,968

ロ. 買掛金

相手先	金額 (百万円)
東海興業(株)・ライト工業(株)	1,547
岩田地崎建設(株)	785
(株)熊谷組	550
ナイス(株)	101
(株)ジューテック	76
その他	1,045
合計	4,106

ハ. 短期借入金

相手先	金額 (百万円)
(株)東京スター銀行	2,680
中央三井信託銀行(株)	978
川口信用金庫	500
NECキャピタルソリューション(株)	427
(株)CKファイナンス	414
その他	489
合計	5,489

(注) 中央三井信託銀行(株)は、平成24年4月1日付で吸収合併されており、会社名を三井住友信託銀行(株)に変更しております。

ニ. 長期借入金

相手先	金額 (百万円)
(株)りそな銀行	4,106
(株)武蔵野銀行	3,088
日本抵当証券(株)	2,173
(株)商工組合中央金庫	2,063
(株)三井住友銀行	1,564
その他	13,245
合計	26,240

(注) 1. 上記金額は、「1年内返済予定の長期借入金」の金額を含んでおります。

(注) 2. 日本抵当証券(株)は、平成24年4月1日付で芙蓉総合リース(株)に吸収合併されております。

(3) 【その他】

当社は、平成22年6月28日付にて、株式会社整理回収機構より、474百万円の保証債務履行請求訴訟を提起されておりました。

当該訴訟の内容は、昭和53年に締結した「提携長期住宅ローンに関する協定書」に基づき、金銭消費貸借契約15件（昭和55年から平成7年まで）について、保証債務の履行等を求められていたものであります。

当社といたしましては、履行すべき保証債務は存在しないものと認識しており、裁判において正当性を主張して争っておりましたが、東京地方裁判所から本件の早期かつ円満な解決を目的とした和解の勧告がなされました。

これを受け当社は、本件係争が更に長期化をした場合に見込まれる経営資源の損失や、本件の解決金等について総合的に検討した結果、平成24年2月27日開催の取締役会にて当社が株式会社整理回収機構に対し、金110百万円を支払う和解の勧告を受け入れる旨を決議し、平成24年4月4日付で和解が成立しました。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日及び3月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	
取扱場所	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 本店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
取次所	_____
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は、電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行う。
株主に対する特典	平成24年3月31日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載または記録された100株以上1,000株未満保有の株主様に、お米券2枚(2kg分)、1,000株以上保有の株主様に、お米券5枚(5kg分)を贈呈いたします。

- (注) 1. 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の買増しを請求する権利以外の権利を行使することができません。
2. 株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社は平成24年4月1日をもって、住友信託銀行株式会社、中央三井アセット信託銀行株式会社と合併し、商号を「三井住友信託銀行株式会社」に変更したため、以下のとおり、商号・住所等が変更となっております。

取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
(特別口座)	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第39期）（自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日）平成23年6月21日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

平成23年6月21日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

（第40期第1四半期）（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）平成23年8月12日関東財務局長に提出

（第40期第2四半期）（自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日）平成23年11月14日関東財務局長に提出

（第40期第3四半期）（自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日）平成24年2月13日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

平成23年6月24日関東財務局長に提出

企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）に基づく臨時報告書であります。

(5) 自己株券買付状況報告書

報告期間（自 平成23年7月26日 至 平成23年7月31日）平成23年8月1日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成23年8月1日 至 平成23年8月31日）平成23年9月1日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成23年9月1日 至 平成23年9月30日）平成23年10月3日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成23年10月1日 至 平成23年10月31日）平成23年11月1日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成23年11月1日 至 平成23年11月30日）平成23年12月1日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成23年12月1日 至 平成23年12月31日）平成24年1月4日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成24年1月1日 至 平成24年1月31日）平成24年2月1日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成24年2月1日 至 平成24年2月29日）平成24年3月1日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成24年3月1日 至 平成24年3月31日）平成24年4月2日関東財務局長に提出

報告期間（自 平成24年5月15日 至 平成24年5月31日）平成24年6月1日関東財務局長に提出

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成24年 6月22日

株式会社タカラレーベン

取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柳下 敏男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 秀彰 印

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社タカラレーベンの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社タカラレーベン及び連結子会社の平成24年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成24年5月14日開催の取締役会において自己株式の取得について決議した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社タカラレーベンの平成24年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社タカラレーベンが平成24年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成24年6月22日

株式会社タカラレーベン

取締役会 御中

太陽A S G有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 柳下 敏男 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 秀彰 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社タカラレーベンの平成23年4月1日から平成24年3月31日までの第40期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社タカラレーベンの平成24年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成24年5月14日開催の取締役会において自己株式の取得について決議した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が別途保管しております。
2. 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。